

第19回川崎病全国調査成績

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

- ・子どもの病気に関する包括的データベース（難治性疾患に関する疫学研究データベース等を含む）の構築とその利用に関する研究　－ 2005-2007年度

川崎病全国調査担当グループ

[連絡先] 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
自治医科大学公衆衛生学教室気付
川崎病全国疫学調査事務局
連絡担当 屋代真弓、上原里程

TEL 0285-44-6192
FAX 0285-44-7217

2007年9月

第 19 回川崎病全国調査成績

はじめに

1970 年以来 2 年に 1 回の間隔で 18 回にわたって、川崎病全国調査が行なわれてきた¹⁻³⁰⁾。今回 2005 年～ 2006 年の 2 年間の患者を対象に実施した第 19 回川崎病全国調査の成績がまとまった。2 年間の調査成績より、報告患者数、初診年月分布、性・年齢分布、地域分布、診断、家族歴、再発例、死亡例、心障害例（急性期、後遺症）、初診時病日、ガンマグロブリン治療開始時病日、退院時病日、初診から退院までの日数、ガンマグロブリン治療、解熱病日、追加治療の詳細（ガンマグロブリン投与、ステロイド投与）、BCG接種部位の発赤痂皮形成の有無等の疫学・臨床像を明らかにしたので、一部これまでの調査成績と比較しながらその概要を報告する。

I. 方法

第 19 回川崎病全国調査は、2005 年 1 月 1 日より 2006 年 12 月 31 日の 2 年間に小児科を併設する 100 床以上の病院、および小児科のみを標榜する 100 床未満の専門病院を受診した川崎病初診患者を対象に実施した。調査を依頼した施設のリストは、厚生労働省統計情報部保健統計室発行のリストによって作成した。対象候補施設数は 2,223 か所であった。（添付の調査票様式参照）

II. 調査結果

1. 回収率

依頼状、調査票等を送付した 2,223 施設のうち、廃院等の連絡があった 40 施設を除く 2,183 施設を調査対象とした。回答は 1,543 施設から得られ、回収率は 70.7 %であった。そのうち、患者報告があった施設は 993 施設（回収施設の 64.4 %）であった。回収率は、都道府県によって 40.0 %～ 88.5 %の開きがみられた。

2. 年次推移

今回の調査で報告された 2 年間の患者数は、2005 年 10,041 人、2006 年 10,434 人のあわせて 20,475 人であり、今回初めて 2 年連続で 1 万人以上の患者が報告された。性別患者数は、男 11,892 人、女 8,583 人で、2 年間平均の罹患率は 0-4 歳人口 10 万対 184.6（男 209.3、女 158.6）であった。患者数の性比は 1.39、罹患率の性比は 1.32 で男が多かった。過去 18 回に報告された患者を含めると 2006 年 12 月末までの患者数は、合計 225,682 人（男 130,827 人、女 94,855 人）になった。川崎病は 1979 年、1982 年、1986 年の 3 回にわたり全国規模の流行がみられたが、患者数の年次推移は、表 1、図 1 に示すように、近年の増加はめまぐるしく、2000 年の患者数は第 1 回目の流行年（1979 年）の 1.2 倍となり急勾配で増加している。さらに、2005 年には 10,000 人を超えた。罹患率の年次推移をみると、表 1、図 2 に示すように、近年増加し続け、2005 年の罹患率は 3 回目の流行年である 1986 年の 176.8 を抜いて史上第 2 位になった。2006 年の男の罹患率は史上第 1 位である 1982 年の男の罹患率に匹敵するものとなっている。ここ数年の患者発生の状況からみて、川崎病の原因究明を目的としたさらに強力な研究体制の確立が迫られ、地域ごとの患者発生動向の監視体制の強化も必要である。

3. 月別推移

最近 6 年間の月別、性別患者数を図 3 に示す。患者数は各年とも同じような傾向で、すべての月で男が多くなっている。また、10 月は少なく、1 月は多かった。特に 2005 年の 12 月から 2006 年の 1 月は以前に比べて多く、この時期に流行があったことが示唆された。特に男は、前年の同時期の 1.2 倍となっていた。

4. 性・年齢分布

患者数の性・年齢別分布をみると、3 歳未満の者の割合は全体の 65.9 %（男 67.0 %、女 64.4 %）であった（表 2）。2005 年、2006 年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも 6-8 か月にピーク（人口 10 万対 男 379.1、女 260.8）をもつ一峰性の山がみられた。前回実施した 2003 年、2004 年の成績では 9-11 か月がピークであり、若年化の様相を呈していた。罹患率の性比は、月齢が 9-11 か月の者で最も大きく 1.49 であった（図 4）。

5. 地域分布

2年間の患者住所都道府県別報告数が最も多かったのは、東京 1,997 人、次いで神奈川 1,753 人、大阪 1,549 人、愛知 1,355 人の順であった。観察した両年の年次別都道府県別罹患率を0-4歳人口 10 万対の割合で計算した（都道府県別罹患率の分母は、2005 年国勢調査人口を使用し、全国の罹患率は各年次の推定人口を用いて計算した。ただし 2006 年は前年の人口を使用）。両年とも罹患率が著しく高いところは、石川、大分、千葉、福井などであり、福井、大分は 2005 年の罹患率が前年の 1.5 倍となっており、局地的に患者数の増加があったと考えられる。また沖縄も前年の罹患率の 1.8 倍であった。2年間とも低いところは、岩手、富山、宮崎、佐賀などであった（表 3）。

2003 年～ 2006 年の各年について、都道府県別罹患率の地図を作成した（図 5）。都道府県によって回収率が異なるので、未回収施設も同じ患者数があると仮定して回収率を 100 % に補正して、0-4 歳人口 10 万対罹患率の地域差を示した。2003 年に罹患率の高い地域は、群馬、福井、愛媛と全国に分散していたが、2004 年には周辺地域に拡がり関東甲信越、中国、近畿、九州、東北の一部の県で高くなった。2005 年には、関東地方から北海道まで高率地域はやや東に移動し、2006 年には関東、中国、四国、九州地方にさらに高率地域が広がった。

6. 診断

診断基準への一致度をみると、定型例 82.1 %（男 82.3 %、女 82.0 %）、不定型例 3.5 %（男 3.7 %、女 3.3 %）、容疑例 14.3 %（男 14.1 %、女 14.7 %）であった。

なお、定型例（調査票では「確実 A」とした）は「川崎病診断の手引き 改訂 5 版（2002 年 2 月に診断の手引きが改訂され、第 17 回全国調査から改訂 5 版を使用）」に示された 6 つの主要症状のうち 5 つ以上の症状を伴う者、不定型例（「確実 B」）は 4 つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは、心血管造影法で、冠動脈瘤（いわゆる拡大を含む）が確認され、他の疾患が除外された者をいう。また容疑例（「容疑」）は上記のいずれにも合致しないが、主治医が川崎病の疑いありと診断して全国調査に報告した者をいう。

7. 家族歴

同胞例ありの割合は報告患者中 1.3 %（男 1.3 %、女 1.2 %）であった。

両親のいずれかに川崎病の既往歴ありの者は 102 人（男 55 人、女 47 人）報告され、報告患者中 0.5 %（男 0.5 %、女 0.5 %）であった。既往歴を有する両親の内訳は父 45 人、母 55 人、不明 2 人であった。これらは前回報告（75 人（父 31 人、母 44 人））の数字よりも多かった。

8. 再発例

再発例の割合は報告患者中 3.7 %（男 3.9 %、女 3.3 %）であった。

性・年齢別にみると男は 4 歳、女は 5 歳まで年齢とともに再発割合が増加していた。

9. 死亡例

死亡例は、2年間で 2 人（男 2 人）報告された。致命率は 0.01 % であり、2 例とも初診時年齢が 6 か月未満の若年時の発症で、発症後 2 か月以内の急性期の死亡であった。死因は 1 例が「ショック」、もう 1 例が「急性壊死性脳症」であった。

10. 心障害例

心障害については、発病後 1 か月以内に出現した急性期の心障害と 1 か月以降も残存する後遺症にわけて調査を実施した。

報告患者中の心障害例（急性期）の割合は 12.9 %（男 14.9 %、女 10.3 %）、心障害例（後遺症）の割合は 3.8 %（男 4.5 %、女 2.8 %）であり、後遺症は急性期に比べて男女とも約 1/3 に低下していた。両者とも男が高率を示し、性・年齢別にみると男女とも若年児と高年児が高く、心障害例（急性期）では男は 1 歳、女は 6-11 か月未満に窪み、心障害例（後遺症）は男は 1 歳、女は 2 歳に窪みをもつゆるやかな U 字型のカーブを示していた（図 6）。

心障害例（急性期）の種類別の割合は報告患者中、冠動脈の拡大 10.09 %、弁膜病変 1.88 %、瘤 1.49 %、巨大瘤 0.35 %、狭窄 0.02 %、心筋梗塞 0.01 % であった。前回と比べて、瘤が減少し、弁膜病変が増加した。男女別にみるとすべて男で高かった。出現率を 2 歳未満と、2 歳以上の 2

区分に分けてみると、巨大瘤、拡大、弁膜病変、心筋梗塞の出現率は2歳以上で高率にみられた。中でも巨大瘤は2歳以上が2歳未満に比べて約1.7倍の出現率であった。

心障害例（後遺症）の種類別の割合は報告患者中、冠動脈の拡大 2.33 %、瘤 1.04 %、弁膜病変 0.41 %、巨大瘤 0.35 %、狭窄 0.06 %、心筋梗塞 0.01 %であった。男女別にみると、すべて男で高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみると、巨大瘤のみ2歳以上で高率にみられた（表4）。

1 1. BCG接種歴と接種部位の変化

BCG接種歴のある患者15,524人のうち、接種部位の変化があったのは7,745人（49.9%）であり、性別には、男は接種歴ありのうち51.9%、女は47.1%に接種部位の変化がみられた。年齢別では、6-11か月で88.2%と最も多く、次いで1歳72.9%、0-5か月68.2%であった。2歳以上の者では、変化のある者の割合は少なく、年齢の増加に伴って、さらに減少していた（表5）。

1 2. 初診時病日およびガンマグロブリン治療開始時病日

患者の初診日は第4病日が最も多く24.4%であり、第4病日までに受診した者は67.4%であった。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第4病日までに受診した者は2歳未満の者では71.3%を占めていたが、2歳以上の者では63.7%であり、2歳未満の若年児が早く受診する傾向を示していた。

ガンマグロブリンの投与開始日は第5病日が最も多く36.5%であった。年齢別にみると、2歳未満が早く投与を開始する傾向がみられ、第5病日までに投与を開始した者の割合は2歳未満では68.2%、2歳以上では58.4%であった（表6）。

1 3. 退院時病日および初診から退院までの日数

患者の退院時病日は第13-15病日が最も多く27.9%であり、第21病日までに退院した者は86.5%を占めていた。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第21病日までに退院した者は2歳未満の者が86.5%、2歳以上の者は85.8%であり、ほとんど年齢差はみられなかった。初診から退院までの日数は9日以内が最も多く27.5%であった。前回の調査では初診から退院までの日数は10-12日が一番多かったことにより、入院から退院までの期間が短くなったと考えられる。15日以内に退院した患者が75.3%であり、この割合に年齢の差はみられなかった（表7）。

1 4. ガンマグロブリン治療

ガンマグロブリンの治療を受けた者は86.0%（男86.3%、女85.6%）を占めていた。

ガンマグロブリン1日あたりの投与量は、1900-2099 mg/kgの者が最も多く67.6%、次いで900-1099 mg/kg 28.3%、300-499 mg/kg 1.59%となっていた。投与期間は1日が最も多く、79.3%、次いで2日18.7%であった。ガンマグロブリンの1日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1900-2099 mg/kgが最も多く86.6%、次いで900-1099 mg/kgが10.2%、2100 mg/kg+が1.3%であった。前回に比べて2000 mg/kg × 1日の短期間大量投与がさらに増加した（表8）、（図7）。

初回ガンマグロブリン使用例で、追加治療ありの割合は、ガンマグロブリン追加投与16.2%、ステロイド投与4.5%（ガンマグロブリン追加投与、ステロイド投与併用例を含む）であった。ステロイド投与のうち、パルス療法が3.0%、パルス以外が2.5%（パルス療法、パルス以外併用例を含む）であった。診断別では、いずれも定型例で追加治療ありの割合が高く、2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、すべて2歳以上で高かった（表9）。

1 5. 解熱病日

解熱病日は第7病日が最も多く22.1%であり、第8病日までに解熱した者は70.3%を占めていた。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第8病日までに解熱した者は2歳未満の者が75.2%、2歳以上の者は65.7%であり、2歳以上の者の方が解熱に要する日数が長かった（表10）。

Ⅲ. 要約

1. 2年間の報告患者数は20,475人(2005年10,041人、2006年10,434人)であり、1987年以降患者数は着実に増加、2000年以降は急上昇を続けている。

2. 0-4歳人口10万対罹患率は、2005年181.0(男206.5、女154.2)、2006年188.1(男212.0、女163.0)であった。2006年の罹患率は、史上第2位となった。

3. 最近6年間(2001-2006年)の月別患者数は男女とも、10月が少なく1月が多かった。またすべての月で男が多かった。特に2005年の12月から翌年1月は以前に比べて多く、この時期に流行があったことが示唆された。

4. 2005年、2006年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも6-8か月にピーク(人口10万対男379.1、女260.8)をもつ一峰性の山がみられた。罹患率の性比は、月齢が9-11か月の者で最も大きく1.49であった。

5. 最近4年間の罹患率の地域差をみると、2003年に罹患率の高い地域は、群馬、福井、愛媛と全国に分散していたが、2004年には周辺地域に拡がり関東甲信越、中国、近畿、九州、東北の一部の県で高くなった。2005年には、関東地方から北海道まで高率地域はやや東に移動し、2006年には関東、中国、四国、九州地方にさらに高率地域が広がった。

6. 診断基準への一致度をみると、定型例82.1%、不定型例3.5%、容疑例14.3%であった。

7. 同胞例、再発例、心障害(急性期)例、心障害(後遺症)例の出現頻度は、それぞれ1.3%、3.7%、12.9%、3.8%であった。両親のいずれかに川崎病の既往歴がある者の割合は0.5%であった。

8. 死亡例は2年間に2人(男2人)報告され、全体の0.01%を占めていた。

9. 心障害(急性期)の内容は、冠動脈の拡大10.09%、弁膜病変1.88%、瘤1.49%、巨大瘤0.35%、狭窄0.02%、心筋梗塞0.01%であり、前回と比べて、瘤が減少し、弁膜病変が増加した。男女別にみるとすべて男が高く、巨大瘤、拡大、弁膜病変、心筋梗塞の出現率は2歳以上で高率にみられた。特に巨大瘤は2歳以上が2歳未満に比べて約1.7倍の出現率であった。

10. 心障害(後遺症)の種類別の割合は報告患者中、冠動脈の拡大2.33%、瘤1.04%、弁膜病変0.41%、巨大瘤0.35%、狭窄0.06%、心筋梗塞0.01%であった。男女別にみると、すべて男が高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみると、巨大瘤のみ2歳以上で高率にみられた。

11. BCG接種歴のある患者15,524人のうち、接種部位の変化があったのは7,745人(49.9%)であり、性、年齢別には男および2歳未満の若年例に接種部位の変化が高率にみられた。

12. 患者の初診日は第4病日が最も多く、2歳未満の若年児がやや早く受診していた。ガンマグロブリンの投与開始病日は、第5病日が最も多く、2歳未満の若年児が早く投与を開始する傾向がみられた。

13. 患者の退院時病日は第13-15病日が最も多く27.9%であり、第21病日までに退院した者は86.5%を占めていた。ほとんど年齢差はみられなかった。初診から退院までの日数は9日以内が最も多く27.5%であった。15日以内に退院する者は75.3%を占めていた。

14. ガンマグロブリンの治療を受けた者は86.0%を占め、1日あたり投与量は2000 mg/kgがもっとも多く、前回に比べて2000 mg/kg × 1日の短期間大量投与がさらに増加した。

初回ガンマグロブリン使用例で、追加治療ありの割合は、ガンマグロブリン追加投与16.2%、ステロイド投与4.5%であった。

15. 解熱病日は第7病日が最も多く22.1%であり、第8病日までに解熱した者は70.3%を占めていた。年齢別には2歳以上の者の方が解熱に日数を要していた。

文献

- 1) 小児MCL S研究班 (班長: 神前章雄). 小児MCL S全国調査成績, 昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要. 1971.
- 2) 重松逸造, 柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975;22(6):306-312.
- 3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情報 1975;5(12):22-29.
- 4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976;34(2):275-283.
- 5) 川崎病研究班. 最近(1977-78年)におけるMCL S (川崎病) の実態, 一第5回全国調査結果の速報一. 小児科 1979;20(7):755-757.
- 6) 川崎病研究班. MCL S (川崎病の多発) 一第6回全国調査成績の速報一. 小児科 1981;22(1):53-58.
- 7) 川崎病研究班. 最近(1981年1月-82年6月)におけるMCL S (川崎病) の実態, 一第7回全国調査成績の速報一. 小児科 1983;24(1):53-58.
- 8) 厚生省川崎病研究班. 第8回川崎病全国調査成績. 小児科 1985;26(9):1049-1053.
- 9) 厚生省川崎病研究班. 第9回川崎病全国調査成績. 小児科 1987;28(9):1059-1066.
- 10) 厚生省川崎病研究班. 第10回川崎病全国調査成績. 小児科 1990;31(5):569-576.
- 11) 厚生省川崎病研究班. 第11回川崎病全国調査成績. 小児科 1992;33(3):309-316.
- 12) 厚生省川崎病研究班. 第12回川崎病全国調査成績. 小児科 1994;35(1):61-73.
- 13) 厚生省川崎病研究班. 第13回川崎病全国調査成績. 小児科 1996;37(4):363-383.
- 14) 厚生省川崎病研究班. 第14回川崎病全国調査成績. 小児科診療 1998;61(3):406-420.
- 15) 厚生省川崎病研究班. 第15回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2000;63(1):121-132.
- 16) 厚生省川崎病研究班. 第16回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2002;65(2):332-342.
- 17) 厚生労働省川崎病研究班. 第17回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2004;67(2):313-323.
- 18) 厚生労働省川崎病研究班. 第18回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2006;69(2):281-292.
- 19) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて (日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京:ソフトサイエンス社, 1986;37-51.
- 20) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎病の全国調査成績. 川崎病 (川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京:南江堂, 1988;18-31.
- 21) 柳川洋, 中村好一, 屋代真弓, 川崎富作 (編). 川崎病の疫学一30年間の総括一. 東京:診断と治療社, 2002.
- 22) 屋代真弓, 中村好一, 柳川洋. 川崎病疫学像の最近の推移 1989 ~ 2004. 日本小児科学会雑誌. 2007;111(6):740-745.
- 23) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974;54:271-276.
- 24) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987;80:58-62.
- 25) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. J Infect Dis 1988;158(6):1296-1301.
- 26) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. Pediatrics 1995;95(4):475-479.
- 27) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. Arch Pediatr Adolesc Med 1995;149:779-783.
- 28) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Koyanagi H, Kawasaki T. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. J Epidemiol 1996;6(3):148-157.
- 29) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Tanihara S, Oki I, Zhang T. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. Pediatrics 102(6). URL:<http://www.pediatrics.org/cgi/content/full/102/6/e65>.
- 30) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Hirata S, Zhang T, Kawasaki T. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. Pediatrics 2001;107(3). URL:<http://www.pediatrics.org/cgi/content/full/107/3/e33>.

[表1] 性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

| 年次 | 患者数 | | | 0-4歳10万対年間罹患率* | | | 死亡数 (致命率%) |
|-------|---------|---------|--------|----------------|-------|-------|---------------|
| | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | |
| ～1964 | 88 | 58 | 30 | 1.1 | 1.4 | 0.8 | — |
| 1965 | 61 | 33 | 28 | 0.8 | 0.8 | 0.7 | — |
| 1966 | 79 | 49 | 30 | 1.0 | 1.2 | 0.8 | — |
| 1967 | 101 | 60 | 41 | 1.2 | 1.4 | 1.0 | 2(1.98) |
| 1968 | 310 | 177 | 133 | 3.7 | 4.1 | 3.2 | 6(1.94) |
| 1969 | 461 | 281 | 180 | 5.3 | 6.3 | 4.3 | 9(1.95) |
| 1970 | 887 | 527 | 360 | 10.1 | 11.8 | 8.4 | 10(1.13) |
| 1971 | 804 | 480 | 324 | 8.7 | 10.1 | 7.1 | 10(1.24) |
| 1972 | 1,135 | 658 | 477 | 12.0 | 13.5 | 10.4 | 16(1.41) |
| 1973 | 1,524 | 928 | 596 | 15.6 | 18.4 | 12.5 | 34(2.23) |
| 1974 | 1,963 | 1,157 | 806 | 19.7 | 22.6 | 16.7 | 20(1.02) |
| 1975 | 2,216 | 1,332 | 884 | 22.3 | 26.1 | 18.3 | 16(0.72) |
| 1976 | 2,337 | 1,406 | 931 | 23.9 | 28.0 | 19.6 | 15(0.64) |
| 1977 | 2,798 | 1,706 | 1,092 | 29.3 | 34.8 | 23.5 | 17(0.61) |
| 1978 | 3,459 | 2,064 | 1,395 | 37.7 | 43.7 | 31.2 | 14(0.40) |
| 1979 | 6,867 | 3,987 | 2,880 | 78.0 | 88.1 | 67.3 | 34(0.50) |
| 1980 | 3,932 | 2,317 | 1,615 | 46.5 | 53.4 | 39.2 | 8(0.20) |
| 1981 | 6,383 | 3,677 | 2,706 | 78.3 | 87.9 | 68.2 | 16(0.25) |
| 1982 | 15,519 | 8,762 | 6,757 | 196.1 | 215.8 | 175.4 | 46(0.30) |
| 1983 | 5,961 | 3,441 | 2,520 | 77.3 | 86.9 | 67.1 | 15(0.25) |
| 1984 | 6,514 | 3,790 | 2,724 | 86.0 | 97.5 | 73.9 | 17(0.26) |
| 1985 | 7,611 | 4,430 | 3,181 | 102.1 | 116.4 | 87.1 | 10(0.13) |
| 1986 | 12,847 | 7,250 | 5,597 | 176.8 | 194.7 | 157.9 | 18(0.14) |
| 1987 | 5,256 | 3,066 | 2,190 | 73.8 | 84.0 | 63.1 | 9(0.17) |
| 1988 | 5,217 | 3,056 | 2,161 | 75.3 | 86.0 | 64.1 | 4(0.08) |
| 1989 | 5,591 | 3,251 | 2,340 | 83.6 | 94.7 | 71.9 | 8(0.14) |
| 1990 | 5,706 | 3,268 | 2,438 | 88.1 | 98.4 | 77.3 | 12(0.21) |
| 1991 | 5,677 | 3,354 | 2,323 | 90.1 | 103.8 | 75.7 | 7(0.12) |
| 1992 | 5,544 | 3,250 | 2,294 | 89.9 | 102.8 | 76.4 | 2(0.04) |
| 1993 | 5,389 | 3,155 | 2,234 | 89.1 | 101.6 | 75.9 | 11(0.20) |
| 1994 | 6,069 | 3,574 | 2,495 | 101.1 | 115.9 | 85.4 | 2(0.03) |
| 1995 | 6,107 | 3,548 | 2,559 | 102.6 | 116.4 | 88.2 | 6(0.09) |
| 1996 | 6,424 | 3,691 | 2,733 | 108.4 | 121.6 | 94.6 | 4(0.06) |
| 1997 | 6,373 | 3,690 | 2,683 | 108.0 | 122.0 | 93.2 | 9(0.14) |
| 1998 | 6,593 | 3,799 | 2,794 | 111.5 | 125.3 | 96.9 | 2(0.03) |
| 1999 | 7,047 | 4,102 | 2,945 | 119.6 | 135.8 | 102.6 | 3(0.04) |
| 2000 | 8,267 | 4,758 | 3,509 | 141.1 | 158.5 | 122.8 | 5(0.06) |
| 2001 | 8,113 | 4,588 | 3,525 | 138.8 | 153.2 | 123.7 | 0(-) |
| 2002 | 8,839 | 5,156 | 3,683 | 151.9 | 172.8 | 130.0 | 2(0.02) |
| 2003 | 9,146 | 5,281 | 3,865 | 159.2 | 179.2 | 138.2 | 4(0.04) |
| 2004 | 9,992 | 5,778 | 4,214 | 175.9 | 198.3 | 152.4 | 4(0.04) |
| 2005 | 10,041 | 5,868 | 4,173 | 181.0 | 206.5 | 154.2 | 1(0.01) |
| 2006 | 10,434 | 6,024 | 4,410 | 188.1 | 212.0 | 163.0 | 1(0.01) |
| 計 | 225,682 | 130,827 | 94,855 | — | — | — | 429(0.19) |

*罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人人口(5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2006年は2005年の推計人口)を用いた。前回調査の2004年は2003年の人口を用いたので今回2004年の人口で修正した。

[表2] 年齢別、年次別、性別患者数および罹患率(人口10万対)

| 年齢 | 患者数 | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 総数 | | | | 2005年 | | | | 2006年 | | | |
| | 総数 | 罹患率* | 男 | 女 | 総数 | 罹患率* | 男 | 女 | 総数 | 罹患率* | 男 | 女 |
| 総数** | 20,475 | 184.6 | 11,892 | 8,583 | 10,041 | 181.0 | 5,868 | 4,173 | 10,434 | 188.1 | 6,024 | 4,410 |
| 0-2か月 | 377 | 71.8 | 211 | 166 | 179 | 68.2 | 102 | 77 | 198 | 75.4 | 109 | 89 |
| 3-5か月 | 1,476 | 281.1 | 896 | 580 | 702 | 267.4 | 417 | 285 | 774 | 294.9 | 479 | 295 |
| 6-8か月 | 1,687 | 321.3 | 1,018 | 669 | 844 | 321.5 | 507 | 337 | 843 | 321.1 | 511 | 332 |
| 9-11か月 | 1,638 | 312.0 | 999 | 639 | 858 | 326.9 | 541 | 317 | 780 | 297.1 | 458 | 322 |
| 12-14か月 | 1,301 | 239.8 | 782 | 519 | 662 | 244.1 | 405 | 257 | 639 | 235.6 | 377 | 262 |
| 15-17か月 | 1,246 | 229.7 | 739 | 507 | 626 | 230.8 | 380 | 246 | 620 | 228.6 | 359 | 261 |
| 18-20か月 | 1,180 | 217.5 | 697 | 483 | 621 | 228.9 | 353 | 268 | 559 | 206.1 | 344 | 215 |
| 21-23か月 | 1,110 | 204.6 | 647 | 463 | 525 | 193.5 | 316 | 209 | 585 | 215.7 | 331 | 254 |
| 2歳- | 1,907 | 171.8 | 1,111 | 796 | 921 | 165.9 | 525 | 396 | 986 | 177.7 | 586 | 400 |
| 2歳6か月- | 1,577 | 142.1 | 871 | 706 | 710 | 127.9 | 410 | 300 | 867 | 156.2 | 461 | 406 |
| 3歳- | 1,381 | 120.8 | 762 | 619 | 676 | 118.3 | 377 | 299 | 705 | 123.4 | 385 | 320 |
| 3歳6か月- | 1,208 | 105.7 | 680 | 528 | 632 | 110.6 | 357 | 275 | 576 | 100.8 | 323 | 253 |
| 4歳- | 1,871 | 80.8 | 1,039 | 832 | 898 | 77.5 | 493 | 405 | 973 | 84.0 | 546 | 427 |
| 5歳- | 1,180 | 50.0 | 690 | 490 | 533 | 45.2 | 318 | 215 | 647 | 54.8 | 372 | 275 |
| 6歳- | 627 | 26.6 | 351 | 276 | 317 | 26.9 | 175 | 142 | 310 | 26.3 | 176 | 134 |
| 7歳- | 354 | 15.0 | 195 | 159 | 173 | 14.7 | 96 | 77 | 181 | 15.3 | 99 | 82 |
| 8歳- | 151 | 6.4 | 74 | 77 | 76 | 6.4 | 39 | 37 | 75 | 6.4 | 35 | 40 |
| 9歳- | 90 | 3.8 | 58 | 32 | 41 | 3.5 | 25 | 16 | 49 | 4.2 | 33 | 16 |
| 10歳以上 | 114 | 1.0 | 72 | 42 | 47 | 0.8 | 32 | 15 | 67 | 1.1 | 40 | 27 |

*罹患率の計算には2005年人口動態統計の分母に用いる日本人人口を用いた。

**総数の罹患率の計算には、0-4歳日本人人口を用いた。

[表3] 患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0-4歳人口10万対)

| | 2003年 | | | | 2004年 | | | | 2005年 | | | | 2006年 | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 患者数 | | | 罹患率* | 患者数 | | | 罹患率* | 患者数 | | | 罹患率* | 患者数 | | | 罹患率* |
| | 総数 | 男 | 女 | | 総数 | 男 | 女 | | 総数 | 男 | 女 | | 総数 | 男 | 女 | |
| 全国** | 9,146 | 5,281 | 3,865 | 159.2 | 9,992 | 5,778 | 4,214 | 175.9 | 10,041 | 5,868 | 4,173 | 181.0 | 10,434 | 6,024 | 4,410 | 188.1 |
| 1:北海道 | 406 | 220 | 186 | 170.6 | 363 | 208 | 155 | 164.3 | 392 | 230 | 162 | 177.4 | 385 | 239 | 146 | 174.2 |
| 2:青森 | 100 | 54 | 46 | 151.5 | 102 | 64 | 38 | 175.9 | 112 | 69 | 43 | 193.1 | 89 | 53 | 36 | 153.4 |
| 3:岩手 | 84 | 51 | 33 | 133.3 | 76 | 42 | 34 | 133.3 | 43 | 27 | 16 | 75.4 | 47 | 26 | 21 | 82.5 |
| 4:宮城 | 220 | 114 | 106 | 201.8 | 228 | 124 | 104 | 223.5 | 89 | 56 | 33 | 87.3 | 132 | 86 | 46 | 129.4 |
| 5:秋田 | 54 | 30 | 24 | 114.9 | 54 | 32 | 22 | 131.7 | 58 | 30 | 28 | 141.5 | 55 | 27 | 28 | 134.1 |
| 6:山形 | 86 | 55 | 31 | 153.6 | 79 | 51 | 28 | 154.9 | 110 | 70 | 40 | 215.7 | 91 | 56 | 35 | 178.4 |
| 7:福島 | 165 | 91 | 74 | 160.2 | 162 | 88 | 74 | 174.2 | 148 | 81 | 67 | 159.1 | 187 | 109 | 78 | 201.1 |
| 8:茨城 | 200 | 114 | 86 | 139.9 | 222 | 136 | 86 | 168.2 | 225 | 133 | 92 | 170.5 | 240 | 127 | 113 | 181.8 |
| 9:栃木 | 149 | 87 | 62 | 156.8 | 164 | 85 | 79 | 180.2 | 177 | 106 | 71 | 194.5 | 200 | 133 | 67 | 219.8 |
| 10:群馬 | 180 | 108 | 72 | 187.5 | 168 | 93 | 75 | 182.6 | 167 | 100 | 67 | 181.5 | 180 | 112 | 68 | 195.7 |
| 11:埼玉 | 426 | 248 | 178 | 127.5 | 537 | 303 | 234 | 170.5 | 505 | 253 | 252 | 160.3 | 464 | 267 | 197 | 147.3 |
| 12:千葉 | 490 | 264 | 226 | 179.5 | 606 | 352 | 254 | 228.7 | 597 | 369 | 228 | 225.3 | 622 | 360 | 262 | 234.7 |
| 13:東京 | 812 | 474 | 338 | 170.2 | 917 | 527 | 390 | 192.2 | 956 | 549 | 407 | 200.4 | 983 | 533 | 450 | 206.1 |
| 14:神奈川 | 714 | 431 | 283 | 176.7 | 764 | 431 | 333 | 193.9 | 883 | 520 | 363 | 224.1 | 908 | 531 | 377 | 230.5 |
| 15:新潟 | 104 | 56 | 48 | 93.7 | 117 | 69 | 48 | 118.2 | 150 | 100 | 50 | 151.5 | 148 | 80 | 68 | 149.5 |
| 16:富山 | 33 | 19 | 14 | 64.7 | 48 | 32 | 16 | 100.0 | 47 | 33 | 14 | 97.9 | 52 | 30 | 22 | 108.3 |
| 17:石川 | 113 | 55 | 58 | 198.2 | 143 | 88 | 55 | 269.8 | 147 | 90 | 57 | 277.4 | 134 | 83 | 51 | 252.8 |
| 18:福井 | 91 | 54 | 37 | 222.0 | 55 | 35 | 20 | 148.6 | 84 | 47 | 37 | 227.0 | 96 | 61 | 35 | 259.5 |
| 19:山梨 | 55 | 32 | 23 | 127.9 | 45 | 20 | 25 | 118.4 | 44 | 28 | 16 | 115.8 | 67 | 37 | 30 | 176.3 |
| 20:長野 | 179 | 110 | 69 | 167.3 | 220 | 141 | 79 | 220.0 | 189 | 111 | 78 | 189.0 | 208 | 118 | 90 | 208.0 |
| 21:岐阜 | 160 | 94 | 66 | 156.9 | 190 | 106 | 84 | 197.9 | 150 | 87 | 63 | 156.3 | 146 | 88 | 58 | 152.1 |
| 22:静岡 | 273 | 152 | 121 | 151.7 | 340 | 194 | 146 | 196.5 | 272 | 165 | 107 | 157.2 | 353 | 172 | 181 | 204.0 |
| 23:愛知 | 550 | 338 | 212 | 149.9 | 675 | 384 | 291 | 190.7 | 639 | 356 | 283 | 180.5 | 723 | 432 | 291 | 204.2 |
| 24:三重 | 162 | 92 | 70 | 182.0 | 168 | 100 | 68 | 200.0 | 152 | 90 | 62 | 181.0 | 142 | 79 | 63 | 169.0 |
| 25:滋賀 | 90 | 53 | 37 | 126.8 | 107 | 69 | 38 | 155.1 | 145 | 75 | 70 | 210.1 | 114 | 65 | 49 | 165.2 |
| 26:京都 | 205 | 112 | 93 | 173.7 | 232 | 130 | 102 | 207.1 | 227 | 129 | 98 | 202.7 | 213 | 118 | 95 | 190.2 |
| 27:大阪 | 601 | 354 | 247 | 125.7 | 670 | 406 | 264 | 169.6 | 786 | 460 | 326 | 199.0 | 779 | 454 | 325 | 197.2 |
| 28:兵庫 | 436 | 256 | 180 | 162.1 | 477 | 266 | 211 | 188.5 | 536 | 312 | 224 | 211.9 | 525 | 297 | 228 | 207.5 |
| 29:奈良 | 98 | 57 | 41 | 146.3 | 109 | 71 | 38 | 181.7 | 108 | 61 | 47 | 180.0 | 106 | 64 | 42 | 176.7 |
| 30:和歌山 | 100 | 64 | 36 | 204.1 | 103 | 58 | 45 | 245.2 | 111 | 71 | 40 | 264.3 | 78 | 48 | 30 | 185.7 |
| 31:鳥取 | 42 | 21 | 21 | 150.0 | 43 | 27 | 16 | 165.4 | 27 | 14 | 13 | 103.8 | 44 | 27 | 17 | 169.2 |
| 32:島根 | 49 | 24 | 25 | 148.5 | 37 | 25 | 12 | 119.4 | 41 | 24 | 17 | 132.3 | 35 | 21 | 14 | 112.9 |
| 33:岡山 | 86 | 57 | 29 | 92.5 | 115 | 73 | 42 | 130.7 | 124 | 73 | 51 | 140.9 | 156 | 85 | 71 | 177.3 |
| 34:広島 | 246 | 142 | 104 | 180.9 | 281 | 155 | 126 | 217.8 | 237 | 147 | 90 | 183.7 | 250 | 141 | 109 | 193.8 |
| 35:山口 | 103 | 59 | 44 | 156.1 | 72 | 39 | 33 | 118.0 | 98 | 63 | 35 | 160.7 | 96 | 54 | 42 | 157.4 |
| 36:徳島 | 53 | 40 | 13 | 151.4 | 71 | 43 | 28 | 221.9 | 44 | 25 | 19 | 137.5 | 58 | 42 | 16 | 181.3 |
| 37:香川 | 59 | 42 | 17 | 125.5 | 81 | 47 | 34 | 180.0 | 77 | 48 | 29 | 171.1 | 68 | 42 | 26 | 151.1 |
| 38:愛媛 | 143 | 75 | 68 | 213.4 | 111 | 66 | 45 | 182.0 | 118 | 70 | 48 | 193.4 | 136 | 67 | 69 | 223.0 |
| 39:高知 | 29 | 12 | 17 | 85.3 | 38 | 16 | 22 | 122.6 | 47 | 24 | 23 | 151.6 | 62 | 38 | 24 | 200.0 |
| 40:福岡 | 384 | 222 | 162 | 164.8 | 383 | 230 | 153 | 171.7 | 328 | 187 | 141 | 147.1 | 366 | 221 | 145 | 164.1 |
| 41:佐賀 | 73 | 45 | 28 | 165.9 | 51 | 28 | 23 | 127.5 | 40 | 27 | 13 | 100.0 | 48 | 28 | 20 | 120.0 |
| 42:長崎 | 119 | 65 | 54 | 165.3 | 96 | 51 | 45 | 150.0 | 76 | 44 | 32 | 134.4 | 104 | 65 | 39 | 162.5 |
| 43:熊本 | 119 | 70 | 49 | 138.4 | 173 | 92 | 81 | 213.6 | 150 | 92 | 58 | 185.2 | 148 | 88 | 60 | 182.7 |
| 44:大分 | 96 | 50 | 46 | 174.5 | 85 | 47 | 38 | 166.7 | 124 | 71 | 53 | 243.1 | 137 | 78 | 59 | 268.6 |
| 45:宮崎 | 67 | 40 | 27 | 119.6 | 54 | 38 | 16 | 105.9 | 50 | 32 | 18 | 98.0 | 52 | 29 | 23 | 102.0 |
| 46:鹿児島 | 90 | 55 | 35 | 109.8 | 107 | 61 | 46 | 139.0 | 114 | 62 | 52 | 148.1 | 101 | 57 | 44 | 131.2 |
| 47:沖縄 | 52 | 23 | 29 | 62.7 | 51 | 34 | 17 | 62.2 | 95 | 57 | 38 | 115.9 | 104 | 55 | 49 | 126.8 |
| 48:国外 | 0 | 0 | 0 | — | 2 | 1 | 1 | — | 2 | 0 | 2 | — | 2 | 1 | 1 | — |

*2003年の都道府県別罹患率は2000年国勢調査人口、2004-2006年の罹患率は2005年国勢調査人口を用いて計算した。
 **全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2006年は前年の推計人口を使用)。

[表4] 種類別、性別、年齢別心障害の出現率

| | | 総数 | 巨大瘤 | 瘤 | 拡大 | 狭窄 | 心筋梗塞 | 弁膜病変 | |
|-----|-----|-------------------|-------------------|---------------|------------------|------------------|--------------|---------------|---------------|
| 急性期 | 総数 | 20,475 (100.0) | 71 (0.35) | 305 (1.49) | 2,065 (10.09) | 5 (0.02) | 3 (0.01) | 385 (1.88) | |
| | 性別 | 男 | 11,892 (100.0) | 47 (0.40) | 212 (1.78) | 1,412 (11.87) | 3 (0.03) | 2 (0.02) | 226 (1.90) |
| | | 女 | 8,583 (100.0) | 24 (0.28) | 93 (1.08) | 653 (7.61) | 2 (0.02) | 1 (0.01) | 159 (1.85) |
| | 年齢別 | 2歳未満 | 10,015 (100.0) | 26 (0.26) | 179 (1.79) | 952 (9.51) | 3 (0.03) | 1 (0.01) | 159 (1.59) |
| | | 2歳以上 | 10,460 (100.0) | 45 (0.43) | 126 (1.20) | 1,113 (10.64) | 2 (0.02) | 2 (0.02) | 226 (2.16) |
| 後遺症 | 総数 | 20,475 (100.0) | 71 (0.35) | 212 (1.04) | 477 (2.33) | 12 (0.06) | 3 (0.01) | 84 (0.41) | |
| | 性別 | 男 | 11,892 (100.0) | 48 (0.40) | 150 (1.26) | 337 (2.83) | 12 (0.10) | 2 (0.02) | 55 (0.46) |
| | | 女 | 8,583 (100.0) | 23 (0.27) | 62 (0.72) | 140 (1.63) | — | 1 (0.01) | 29 (0.34) |
| | 年齢別 | 2歳未満 | 10,015 (100.0) | 32 (0.32) | 111 (1.11) | 245 (2.45) | 8 (0.08) | 3 (0.03) | 44 (0.44) |
| | | 2歳以上 | 10,460 (100.0) | 39 (0.37) | 101 (0.97) | 232 (2.22) | 4 (0.04) | — | 40 (0.38) |

[表5] 性別、年齢別BCG接種部位の変化ありの割合

| 総数 | | BCG接種歴あり | 部位の変化あり | (%) |
|--------|--------|----------|---------|------|
| | | 15,524 | 7,745 | 49.9 |
| 性別 | 男 | 9,049 | 4,693 | 51.9 |
| | 女 | 6,475 | 3,052 | 47.1 |
| 初診時年齢別 | 0-5か月 | 888 | 606 | 68.2 |
| | 6-11か月 | 2,930 | 2,585 | 88.2 |
| | 1歳 | 4,079 | 2,972 | 72.9 |
| | 2歳 | 2,657 | 1,037 | 39.0 |
| | 3歳 | 1,864 | 282 | 15.1 |
| | 4歳 | 1,351 | 134 | 9.9 |
| | 5歳+ | 1,755 | 129 | 7.4 |

[表6] 年齢別、初診時およびガンマグロブリン投与開始時病日の分布

| | | 総数(%) | | 2歳未満(%) | | 2歳以上(%) | |
|----------------|---------|--------|-------|---------|-------|---------|-------|
| * 初診時 | 総数 | 20,437 | 100.0 | 9,998 | 100.0 | 10,439 | 100.0 |
| | 第1病日 | 1,105 | 5.4 | 698 | 7.0 | 407 | 3.9 |
| | 第2病日 | 3,043 | 14.9 | 1,696 | 17.0 | 1,347 | 12.9 |
| | 第3病日 | 4,649 | 22.7 | 2,390 | 23.9 | 2,259 | 21.6 |
| | 第4病日 | 4,976 | 24.3 | 2,344 | 23.4 | 2,632 | 25.2 |
| | 第5病日 | 3,510 | 17.2 | 1,563 | 15.6 | 1,947 | 18.7 |
| | 第6病日 | 1,673 | 8.2 | 728 | 7.3 | 945 | 9.1 |
| | 第7病日 | 730 | 3.6 | 282 | 2.8 | 448 | 4.3 |
| | 第8病日 | 323 | 1.6 | 114 | 1.1 | 209 | 2.0 |
| | 第9病日 | 149 | 0.7 | 57 | 0.6 | 92 | 0.9 |
| | 第10病日以上 | 279 | 1.4 | 126 | 1.3 | 153 | 1.5 |
| ** ガンマグロブリン投与時 | 総数 | 17,532 | 100.0 | 8,543 | 100.0 | 8,989 | 100.0 |
| | 第1病日 | 6 | 0.0 | 3 | 0.0 | 3 | 0.0 |
| | 第2病日 | 161 | 0.9 | 110 | 1.3 | 51 | 0.6 |
| | 第3病日 | 1,031 | 5.9 | 640 | 7.5 | 391 | 4.3 |
| | 第4病日 | 3,485 | 19.9 | 1,912 | 22.4 | 1,573 | 17.5 |
| | 第5病日 | 6,395 | 36.5 | 3,161 | 37.0 | 3,234 | 36.0 |
| | 第6病日 | 3,509 | 20.0 | 1,519 | 17.8 | 1,990 | 22.1 |
| | 第7病日 | 1,694 | 9.7 | 680 | 8.0 | 1,014 | 11.3 |
| | 第8病日 | 676 | 3.9 | 248 | 2.9 | 428 | 4.8 |
| | 第9病日 | 248 | 1.4 | 101 | 1.2 | 147 | 1.6 |
| | 第10病日以上 | 327 | 1.9 | 169 | 2.0 | 158 | 1.8 |

*初診時病日不明 38人を除く20,437人を集計した。

**ガンマグロブリン使用例17,613人のうち1日投与量、投与日数、投与開始時病日不明81人を除く17,532人を集計した。

[表7] 年齢別、退院時病日・初診から退院までの日数の分布

| | | 総数(%) | | 2歳未満(%) | | 2歳以上(%) | |
|-------------|----------|--------|-------|---------|-------|---------|-------|
| 退院時病日 | 総数* | 20,035 | 100.0 | 9,817 | 100.0 | 10,218 | 100.0 |
| | 第1-9病日 | 1,494 | 7.5 | 849 | 8.6 | 645 | 6.3 |
| | 第10-12病日 | 3,909 | 19.5 | 2,028 | 20.7 | 1,881 | 18.4 |
| | 第13-15病日 | 5,592 | 27.9 | 2,695 | 27.5 | 2,897 | 28.4 |
| | 第16-18病日 | 4,052 | 20.2 | 1,913 | 19.5 | 2,139 | 20.9 |
| | 第19-21病日 | 2,206 | 11.0 | 1,002 | 10.2 | 1,204 | 11.8 |
| | 第22-24病日 | 1,027 | 5.1 | 470 | 4.8 | 557 | 5.5 |
| | 第25-27病日 | 634 | 3.2 | 315 | 3.2 | 319 | 3.1 |
| | 第28-30病日 | 404 | 2.0 | 190 | 1.9 | 214 | 2.1 |
| | 第31病日以上 | 717 | 3.6 | 355 | 3.6 | 362 | 3.5 |
| 初診から退院までの日数 | 総数* | 20,035 | 100.0 | 9,817 | 100.0 | 10,218 | 100.0 |
| | 1-9日 | 5,504 | 27.5 | 2,765 | 28.2 | 2,739 | 26.8 |
| | 10-12日 | 5,295 | 26.4 | 2,534 | 25.8 | 2,761 | 27.0 |
| | 13-15日 | 4,279 | 21.4 | 2,099 | 21.4 | 2,180 | 21.3 |
| | 16-18日 | 2,167 | 10.8 | 1,038 | 10.6 | 1,129 | 11.0 |
| | 19-21日 | 1,022 | 5.1 | 495 | 5.0 | 527 | 5.2 |
| | 22-24日 | 682 | 3.4 | 352 | 3.6 | 330 | 3.2 |
| | 25-27日 | 384 | 1.9 | 184 | 1.9 | 200 | 2.0 |
| | 28-30日 | 215 | 1.1 | 104 | 1.1 | 111 | 1.1 |
| | 31日以上 | 487 | 2.4 | 246 | 2.5 | 241 | 2.4 |

*初診時病日あるいは退院時病日不明および入院なし440人を除く20,035人を集計した。

[表8] ガンマグロブリン1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

| | | 総数(%) | | 1日 | 2日 | 3日 | 4日 | 5日以上 |
|-----|----------------|---------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 総数* | | 17,609 | 100.0 | 13,957 | 3,299 | 57 | 35 | 261 |
| | | (100.0) | | (79.3) | (18.7) | (0.3) | (0.2) | (1.5) |
| | - 299mg/kg | 21 | 0.1 | 4 | 2 | 2 | 0 | 13 |
| | 300-499mg/kg | 280 | 1.6 | 6 | 7 | 22 | 16 | 229 |
| | 500-699mg/kg | 59 | 0.3 | 6 | 8 | 13 | 16 | 16 |
| | 700-899mg/kg | 38 | 0.2 | 9 | 22 | 3 | 1 | 3 |
| | 900-1099mg/kg | 4,988 | 28.3 | 1,771 | 3,200 | 15 | 2 | 0 |
| | 1100-1299mg/kg | 83 | 0.5 | 57 | 26 | 0 | 0 | 0 |
| | 1300-1499mg/kg | 6 | 0.0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 1500-1699mg/kg | 24 | 0.1 | 23 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 1700-1899mg/kg | 116 | 0.7 | 116 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 1900-2099mg/kg | 11,902 | 67.6 | 11,868 | 32 | 2 | 0 | 0 |
| | 2100mg/kg+ | 92 | 0.5 | 91 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 再掲 | 200mg/kg | 11 | 0.1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 10 |
| | 400mg/kg | 231 | 1.3 | 5 | 5 | 16 | 14 | 191 |
| | 1000mg/kg | 4,800 | 27.3 | 1,703 | 3,080 | 15 | 2 | 0 |
| | 2000mg/kg | 11,612 | 65.9 | 11,579 | 31 | 2 | 0 | 0 |
| | その他 | 955 | 5.4 | 670 | 183 | 23 | 19 | 60 |

*ガンマグロブリン使用例17,613人のうち1日投与量、投与日数不明4人を除く17,609人を集計した。
()内は横向きの%を示す。

[表9] 診断別、性別、年齢別追加治療ありの割合

| | | 総数(%) | ガンマグロブリン追加投与 | ステロイド投与 | | |
|-----|------|-------------------|-----------------|--------------|--------------|--------------|
| | | | | 計** | パルス | パルス以外 |
| 総数* | | 17,613 (100.0) | 2,860 (16.2) | 801 (4.5) | 522 (3.0) | 436 (2.5) |
| 診断別 | 定型例 | 15,400 (100.0) | 2,644 (17.2) | 735 (4.8) | 484 (3.1) | 401 (2.6) |
| | 不定型例 | 571 (100.0) | 79 (13.8) | 23 (4.0) | 12 (2.1) | 13 (2.3) |
| | 容疑例 | 1,642 (100.0) | 137 (8.3) | 43 (2.6) | 26 (1.6) | 22 (1.3) |
| 性別 | 男 | 10,268 (100.0) | 1,760 (17.1) | 506 (4.9) | 325 (3.2) | 279 (2.7) |
| | 女 | 7,345 (100.0) | 1,100 (15.0) | 295 (4.0) | 197 (2.7) | 157 (2.1) |
| 年齢別 | 2歳未満 | 8,576 (100.0) | 1,267 (14.8) | 292 (3.4) | 180 (2.1) | 174 (2.0) |
| | 2歳以上 | 9,037 (100.0) | 1,593 (17.6) | 509 (5.6) | 342 (3.8) | 262 (2.9) |

*ガンマグロブリン使用例17,613人を集計した。

**パルスとパルス以外の併用例を含む。

[表10] 年齢別、解熱病日の分布

| | 総数(%) | | 2歳未満(%) | | 2歳以上(%) | |
|----------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 総数 | (%) | 総数 | (%) | 総数 | (%) |
| 総数* | 19,984 | (100.0) | 9,795 | (100.0) | 10,189 | (100.0) |
| 第1-4病日 | 681 | (3.4) | 446 | (4.6) | 235 | (2.3) |
| 第5病日 | 1,707 | (8.5) | 1,035 | (10.6) | 672 | (6.6) |
| 第6病日 | 3,800 | (19.0) | 2,210 | (22.6) | 1,590 | (15.6) |
| 第7病日 | 4,424 | (22.1) | 2,191 | (22.4) | 2,233 | (21.9) |
| 第8病日 | 3,444 | (17.2) | 1,482 | (15.1) | 1,962 | (19.3) |
| 第9病日 | 2,263 | (11.3) | 903 | (9.2) | 1,360 | (13.3) |
| 第10病日 | 1,437 | (7.2) | 543 | (5.5) | 894 | (8.8) |
| 第11病日 | 760 | (3.8) | 303 | (3.1) | 457 | (4.5) |
| 第12病日 | 474 | (2.4) | 182 | (1.9) | 292 | (2.9) |
| 第13病日 | 248 | (1.2) | 114 | (1.2) | 134 | (1.3) |
| 第14病日 | 188 | (0.9) | 81 | (0.8) | 107 | (1.1) |
| 第15-19病日 | 377 | (1.9) | 203 | (2.1) | 174 | (1.7) |
| 第20-24病日 | 107 | (0.5) | 58 | (0.6) | 49 | (0.5) |
| 第25-29病日 | 42 | (0.2) | 22 | (0.2) | 20 | (0.2) |
| 第30病日以上 | 32 | (0.2) | 22 | (0.2) | 10 | (0.1) |

*解熱病日不明および発熱なし491人を除く19,984人を集計した。

図1 年次別、性別患者数

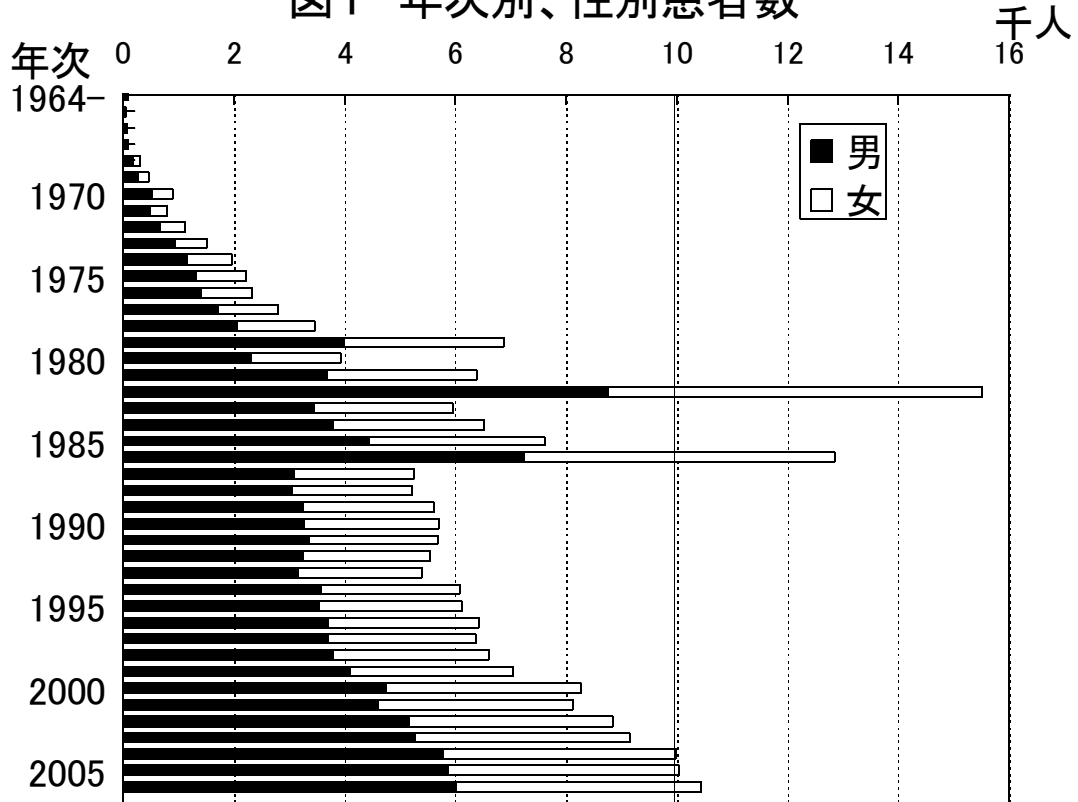


図2 年次別、性別罹患率

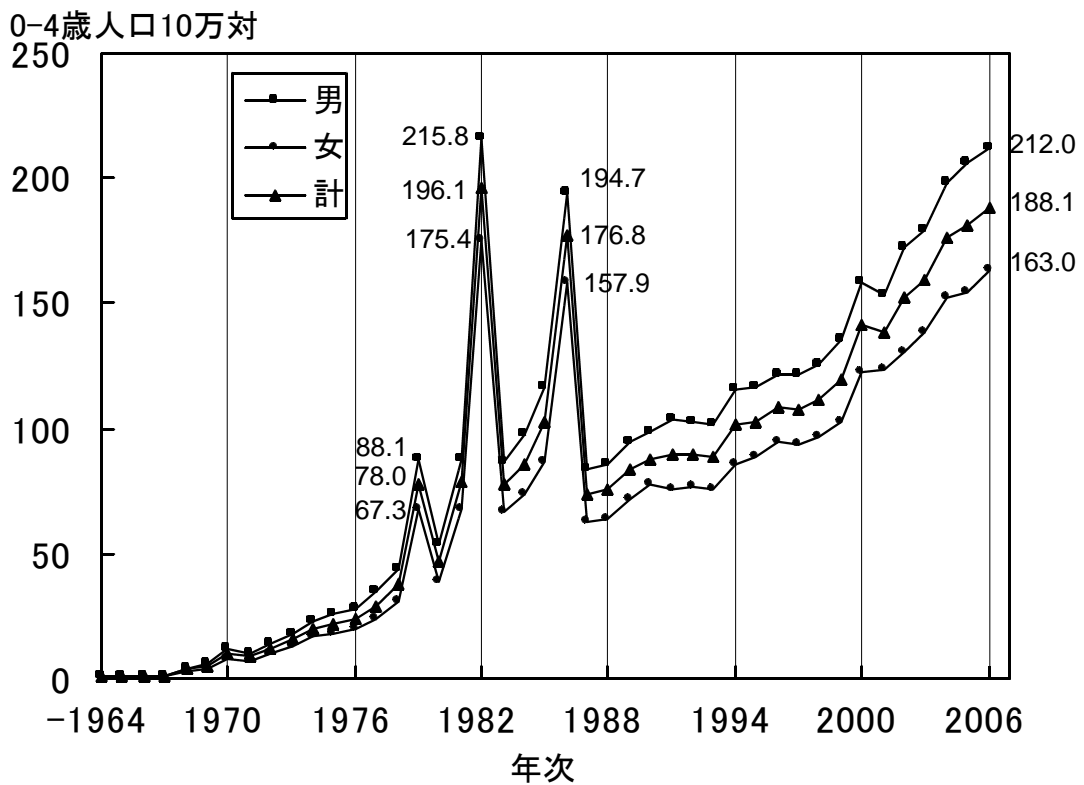


图3 年次別、月別、性別患者数

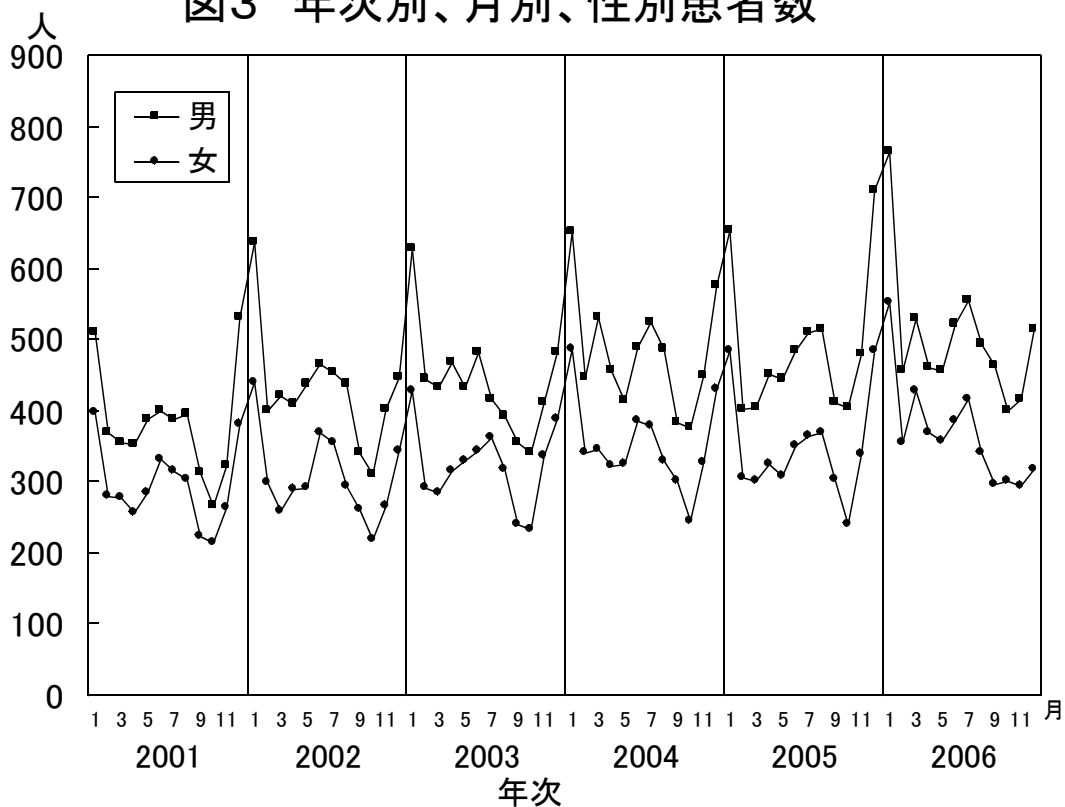


图4 年次別、性別、年齢別罹患率

(2003-04年平均、2005-06年平均)

人口10万対

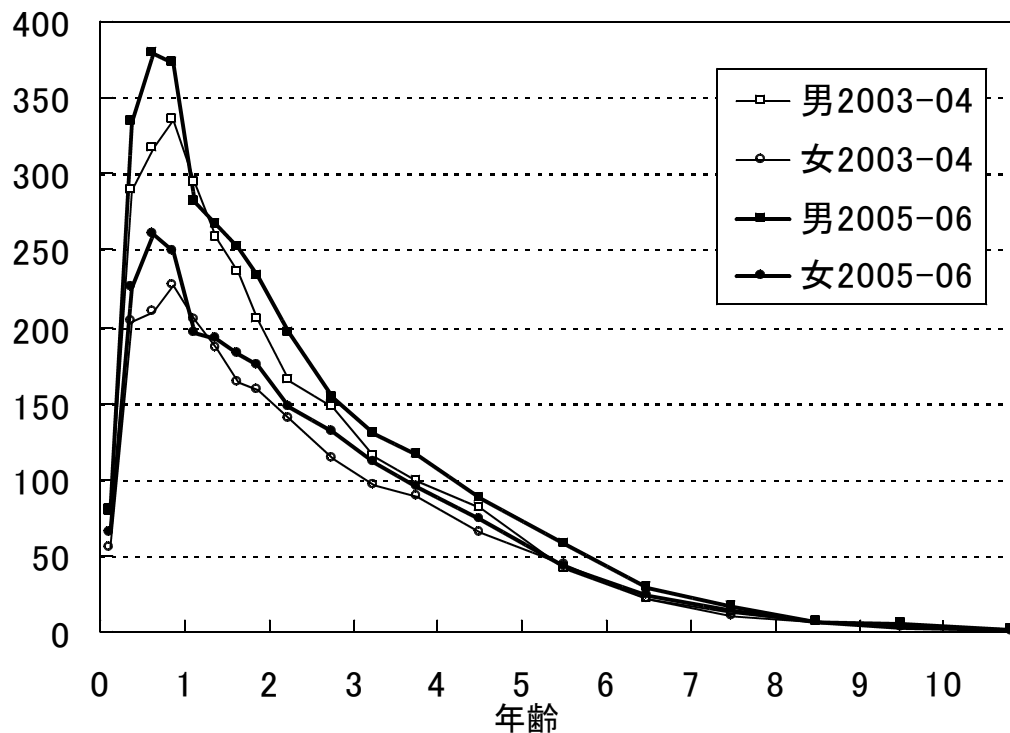


図5 年次別、都道府県別罹患率

回収率補正值
0-4歳人口10万対

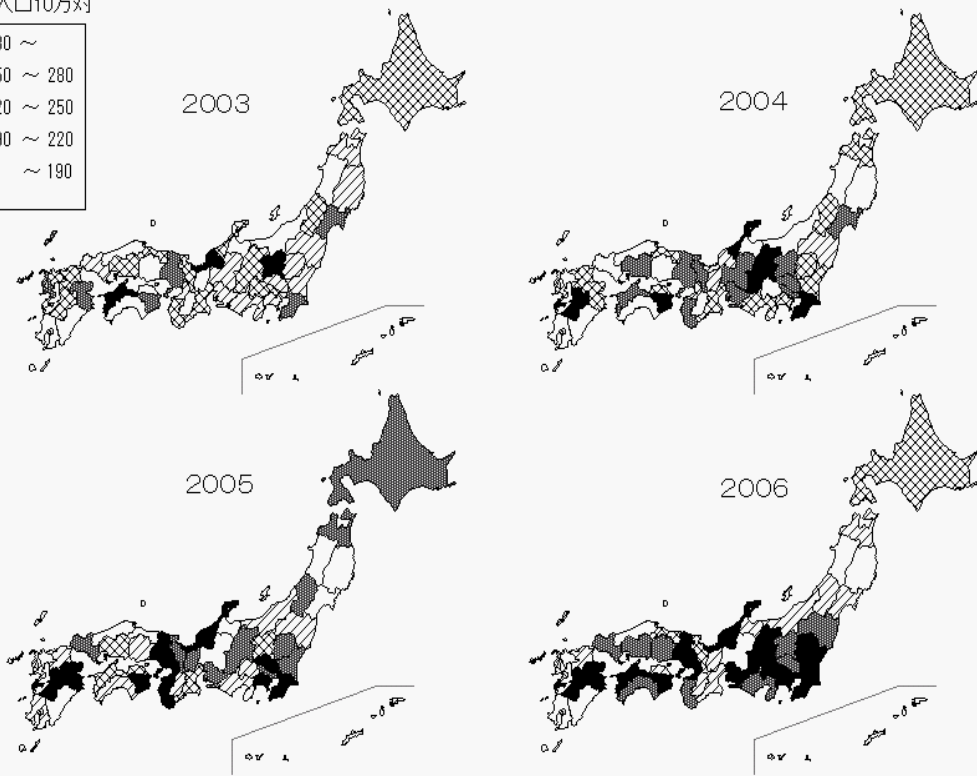
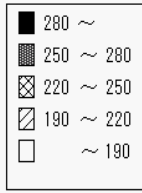


図6 性別、年齢別心障害(急性期、後遺症)の出現率

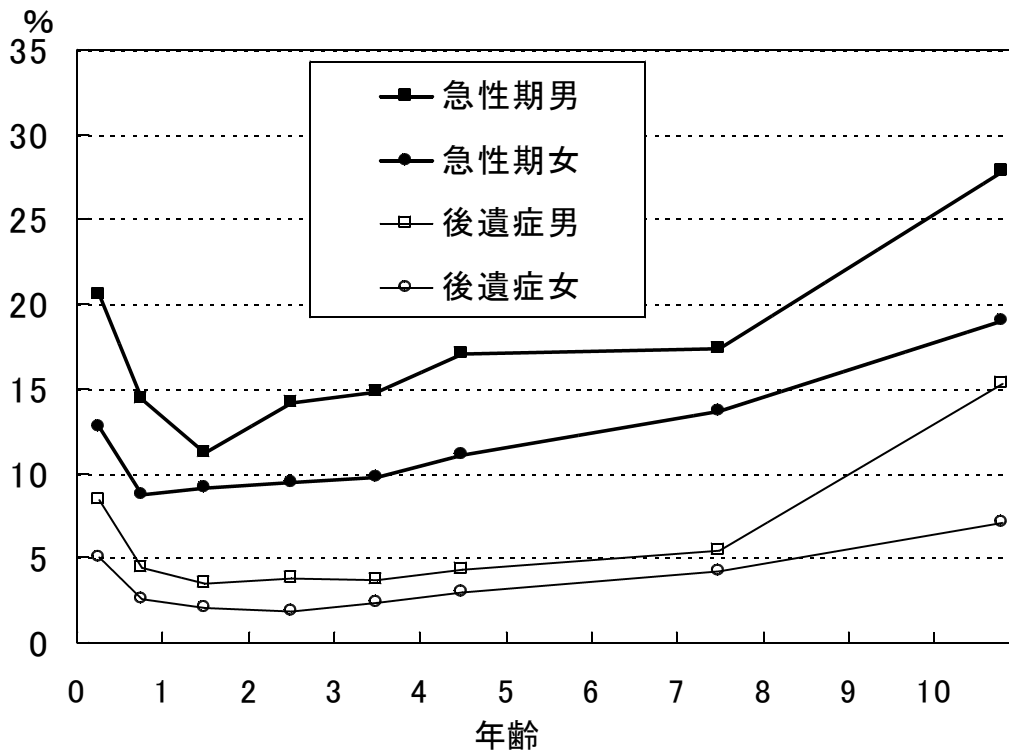
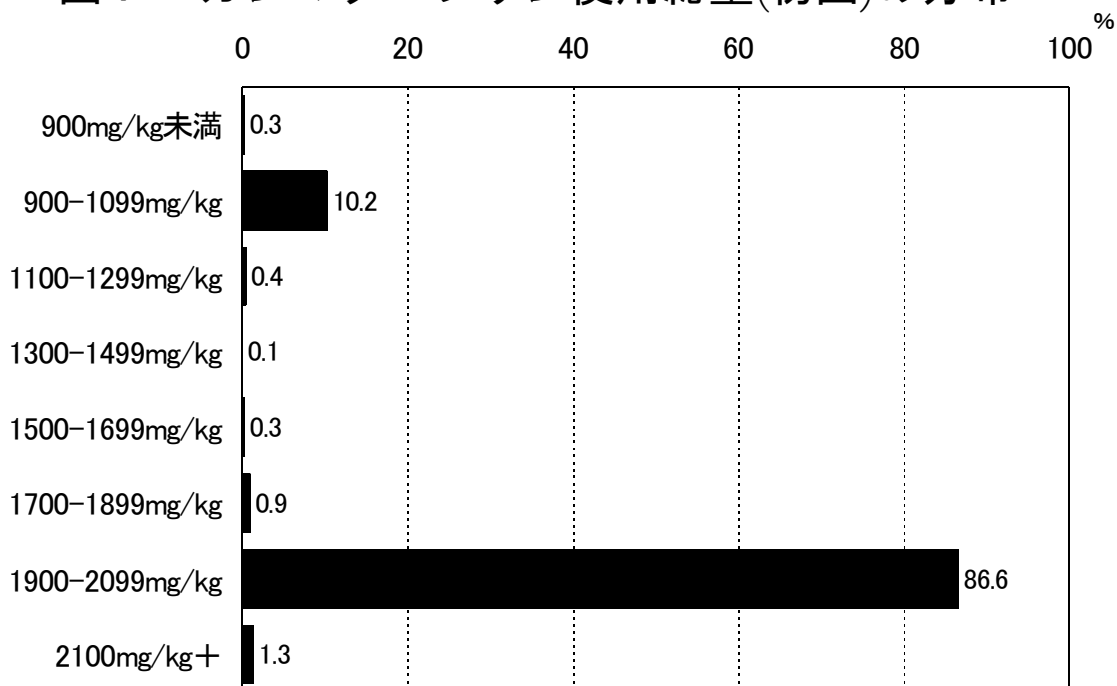


図7 ガンマグロブリン使用総量(初回)の分布



* ガンマグロブリン使用例17,613人のうち1日投与量、投与日数不明4人を除く17,609人を集計

第1回全国調査以来終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究班として深く感謝します。

今回の調査にご協力いただいた医療機関名を付記します。

(記載につきましては、細心の注意を払いましたが、誤りがある場合はどうぞご容赦ください。)

第19回全国調査協力施設名 (都道府県別、順不同)

1. 北海道

(医社) 友愛会恵愛病院
(医療) 聖愛会 発寒中央病院
(医療) 富田病院
(医療法人) 北農会恵み野病院
(財) 小児愛育協会附属愛育病院
JA 北海道厚生連旭川厚生病院
JA 北海道厚生連遠軽厚生病院
JA 北海道厚生連札幌厚生病院
NTT 東日本札幌病院
シロアムこどもクリニック
ふらの西病院
医療法人徳洲会 帯広徳洲会病院
医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
育愛会札幌東豊病院
王子総合病院
岩見沢市立総合病院
岩内協会病院
共愛会病院
勤医協中央病院
釧路市医師会病院
釧路労災病院
栗山赤十字病院
慶愛病院
五輪橋産科婦人科小児科病院
江別市立病院
国立大学法人旭川医科大学医学部附属病院
国立大学法人北海道大学病院
札幌マタニティウイメンズホスピタル
札幌医科大学附属病院
札幌社会保険総合病院
札幌鉄道病院
市立旭川病院
市立根室病院
市立札幌病院
市立三笠総合病院
市立士別総合病院
市立室蘭総合病院
市立小樽病院
市立赤平総合病院
市立千歳市民病院
市立函館病院
市立美唄病院
自衛隊札幌病院
斜里町国民健康保険病院
社会事業協会・小樽病院
社会事業協会・帯広病院
社会事業協会・余市病院
手稲溪仁会病院
新雨竜第一病院
清水赤十字病院
静仁会静内病院
総合病院伊達赤十字病院
総合病院釧路赤十字病院
町立長沼病院
町立別海病院
天使病院
道立旭川肢体不自由児総合療育センター
道立羽幌病院
道立小児総合保健センター
独立行政法人国立病院機構帯広病院
独立行政法人国立病院機構道北病院
苫小牧市立総合病院
白老町立国民健康保険病院
函館五稜郭病院
八雲総合病院
美唄労災病院
美幌療育病院
豊岡中央病院
北海道済生会西小樽病院
北海道社会保険病院
北海道療育園
北楡会札幌北楡病院
名寄市立総合病院

木古内町国民健康保険病院
夕張市立総合病院
留萌市立病院
公立芽室病院
KKR 札幌医療センター
医療法人浩仁会恵庭第一病院
深川市立病院

2. 青森県

(財) 双仁会 厚生病院
むつ総合病院
鯉ヶ沢町立中央病院
医療法人赤心会十和田東病院
公立七戸病院
公立野辺地病院
弘前市立病院
国民健康保険五戸総合病院
国民健康保険五所川原市立西北中央病院
国民健康保険鶴田町立中央病院
国立大学法人弘前大学医学部附属病院
黒石市国保黒石病院
市立三沢病院
青森県立中央病院
青森市民病院
青森市立浪岡病院
青森労災病院
町立大鰐病院
独立行政法人国立病院機構弘前病院
独立行政法人国立病院機構青森病院
独立行政法人国立病院機構八戸病院
八戸市立市民病院
美保野病院
青森県立はまなす医療療育センター
県立あすなろ医療療育センター

3. 岩手県

もりおかこども病院
岩手医科大学附属循環器医療センター
岩手医科大学附属病院
岩手県立釜石病院
岩手県立久慈病院
岩手県立宮古病院
岩手県立高田病院
岩手県立山田病院
岩手県立二戸病院
岩手県立北上病院
啓愛会美希病院
盛岡市立病院
盛岡赤十字病院
盛岡友愛病院
川久保病院
東八幡平病院
独立行政法人国立病院機構盛岡病院
北上済生会病院

4. 宮城県

(医療) 本多友愛会仙南病院
(財) 宮城厚生協会 長町病院
(財) 宮城厚生協会坂総合病院
J R 仙台病院
N T T 東日本東北病院
エコー療育園
みやぎ県南中核病院
医療法人浄仁会大泉記念病院
塩釜市立病院
宮城県拓桃医療療育センター
光ヶ丘スベルマン病院
公立刈田総合病院
公立黒川病院
公立志津川総合病院
自衛隊仙台病院
松田会松田病院
石巻市立病院
仙台社保病院

総合病院仙台赤十字病院
大崎市民病院
登米市立佐沼病院
東北公済病院
東北厚生年金病院
東北労災病院
独立行政法人国立病院機構宮城病院
独立行政法人国立病院機構西多賀病院
気仙沼市立病院

5. 秋田県

医療法人青嵐会本荘第一病院
外旭川病院
湖東総合病院
公立米内沢総合病院
佐藤病院
市立大森病院
鹿角総合総合病院
秋田県太平洋療育園
秋田市立秋田総合病院
秋田社会保険病院
秋田赤十字病院
秋田組合総合病院
秋田大学医学部附属病院
仙北市立角館総合病院
大館市立扇田病院
大館市立総合病院
男鹿みなと市民病院
中通総合病院
藤原記念病院
平鹿総合病院
北秋中央病院
雄勝中央病院
市立横手病院

6. 山形県

(医療) 篠田好生会篠田総合病院
医療法人産婦人科小児科三井病院
県立日本海病院
公立高島病院
公立置賜総合病院
公立置賜長井病院
済生会 山形済生病院
山形県立河北病院
山形県立新庄病院
山形県立中央病院
山形市立病院済生館
山形大学医学部附属病院
市立酒田病院
鶴岡協立病院
鶴岡市立荘内病院
天童市立天童病院
独立行政法人国立病院機構山形病院
米沢市立病院

7. 福島県

(医療) 保科病院
(財) 寿泉堂総合病院
(財) 松村総合病院
(財) 星総合病院
(財) 大原総合病院
(財) 竹田総合病院
(財) 竹林病院
いわき市立総合磐城共立病院
医療生協わたり病院
医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院
医療法人三愛会池田温泉病院
医療法人明信会今泉西病院
県立南会津病院
公立相馬総合病院
公立藤田総合病院
財団法人太田総合病院附属太田西/内病院
財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
坂下厚生総合病院

新生会内科小児科佐藤病院
総合会津中央病院
総合病院福島赤十字病院
中村病院
独立行政法人国立病院機構いわき病院
独立行政法人国立病院機構福島病院
南相馬市立総合病院
白河厚生総合病院
塙厚生病院
福島県厚生農協組合連双葉厚生病院
福島県総合療育センター
福島県立医科大学附属病院
福島整肢療護園
南相馬市立小高病院
社保二本松病院

8. 茨城県

(医療) 愛正会 田尻ケ丘病院
(医療) 住吉クリニック病院
(医療) 常仁会牛久愛和総合病院
(医療) 盡誠会 宮本病院
(財) 筑波学園病院
なめがた地域総合病院
威恵会三岳荘小松崎病院
医療法人社団光仁会総合守谷第一病院
医療法人清真会丹野病院
茨城県立こども福祉医療センター
茨城県立医療大学附属病院
茨城県立中央病院
茨城西南医療センター病院
株式会社日立製作所多賀総合病院
株式会社日立製作所日立総合病院
県西総合病院
県立こども病院
高萩協同病院
国公共済連水府病院
財団法人筑波メディカルセンター病院
城南病院
神栖済生会病院
水戸済生会総合病院
青洲会神立病院
石岡市医師会病院
石岡第一病院
双愛会つくば双愛病院
総合病院取手協同病院
総合病院東京医科大学霞ヶ浦病院
筑西市市民病院
筑波大学附属病院
独立行政法人国立病院機構茨城東病院
独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター
悼慈会日立港病院
日立製作所 水戸総合病院
北茨城市立総合病院
友愛記念病院

9. 栃木県

(財団医療法人 十全会) 上野内科・小児科
とちぎリハビリテーションセンター
とちの木病院
医療法人社団友志会 野木病院
宇都宮社会保険病院
塩谷総合病院
光南病院
国際医療福祉病院
黒須病院
佐野医師会病院
佐野厚生総合病院
佐野市民病院
済生会 宇都宮病院
自治医科大学附属病院
小山市民病院
上都賀総合病院
真岡病院
菅又病院
西方病院
石橋総合病院
足利赤十字病院
独立行政法人国立病院機構栃木病院
南那須地区広域行政事務組合立那須南病院

日光市民病院
芳賀赤十字病院
獨協医科大学病院小児科

10. 群馬県

伊勢崎佐波医師会病院
伊勢崎市民病院
碓氷病院
下仁田厚生病院
希望の家療育病院
群馬県済生会 前橋病院
群馬循環器病院
群馬整肢療護園
群馬大学医学部附属病院
原町赤十字病院
公立富岡総合病院
高崎中央病院
産科婦人科館出張佐藤病院
社保群馬中央総合病院
渋川総合病院
重症心身障害児施設はんなさわらび療育園
小児科佐藤病院
西吾妻福祉病院
前橋協立病院
前橋赤十字病院
藤岡総合病院
独立行政法人国立病院機構高崎病院
独立行政法人国立病院機構沼田病院
独立行政法人国立病院機構西群馬病院
富士重工業健康保険組合総合太田病院
本島総合病院
利根中央病院
両毛整肢療護園
群馬県立小児医療センター
(医療) 山崎会サンビエール病院

11. 埼玉県

(医社) 協友会 吉川中央総合病院
(医社) 青葉会 新座病院
(医社) 東光会 戸田中央産院
(医社) 東光会 戸田中央総合病院
(医療) ヘブロン会大宮中央総合病院
(医療) 健仁会 益子病院
(医療) 光仁会 春日部厚生病院
(医療) 聖仁会 西部総合病院
(医療) 誠壽会 上福岡総合病院
さいたま市立病院
へリオス会病院
医療法人財団健和会みさと健和病院
医療法人社団協友会東川口病院
医療法人社団哺育会白岡中央病院
越谷市立病院
熊谷生協病院
埼玉よりい病院
埼玉医科大学附属病院
埼玉医療生活協同組合皆野病院
埼玉協同病院
埼玉県済生会栗橋病院
埼玉県済生会川口総合病院
埼玉厚生農協連熊谷総合病院
埼玉社会保険病院
三愛会総合病院
至聖病院
至誠堂富田病院
社保大宮総合病院
秋谷病院
春日部市立病院
清水病院
聖蹟会 埼玉県央病院
川口工業総合病院
草加市立病院
大宮医師会 市民病院
秩父市立病院
朝霞台中央総合病院
土屋小児病院
東松山市立市民病院
東鷲宮病院
独立行政法人国立病院機構埼玉病院
独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院

独立行政法人国立病院機構東埼玉病院
飯能中央病院
防衛医科大学校病院
北里研究所メディカルセンター病院
本庄総合病院
獨協医科大学越谷病院

12. 千葉県

(医財) 明理会新松戸中央総合病院
(医社) 愛友会 流山病院
(医社) 協友会 船橋総合病院
(医社) 協友会 柏厚生総合病院
(医社) 勤労者医協船橋二和病院
(医社) 上総会 山之内病院
(医社) 翠明会 山王病院
(医社) 千葉健生病院
(医社) 東光会 北総白井病院
(医法) 成春会北習志野花輪病院
(医療) 公明会 塩田病院
(医療) 聖峰会 岡田病院
(医療) 鉄蕉会 亀田総合病院
J F E 健保組合川鉄千葉病院
みつわ台総合病院
安房医師会病院
医療法人 鎗田病院
医療法人三矢会八街総合病院
医療法人社団聖仁会我孫子聖仁会病院
医療法人社団保健会谷津保健病院
医療法人鳳生会 成田病院
公立長生病院
国保松戸市立病院
国保多古中央病院
社保船橋中央病院
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院
成田赤十字病院
千葉県こども病院
千葉県済生会習志野病院
千葉県循環器病センター
千葉県千葉リハビリテーションセンター
千葉県立東金病院
千葉県立海浜病院
千葉市立青葉病院
千葉社会保険病院
千葉西病院
千葉大学医学部附属病院
千葉労災病院
船橋市立医療センター
組合立国保成東病院
総合病院国保旭中央病院
銚子市立総合病院
帝京大学医学部附属市原病院
東京歯科大学市川総合病院
東京慈恵会医科大学附属柏病院
東邦大学医学部附属佐倉病院
独立行政法人国立病院機構下志津病院
独立行政法人国立病院機構千葉東病院
日本医科大学附属千葉北総病院
野田病院

13. 東京都

(医財) 健康文化会 小豆沢病院
(医社) 関川病院
(医社) 共済会 櫻井病院
(医社) 江東病院
(医社) 時正会 佐々総合病院
(医社) 水野病院
(医社) 誠志会 誠志会病院
(医社) 大坪会 北多摩病院
(医社) 板橋中央総合病院
(医社) 明芳会高島平中央総合病院
(社) 至誠会 第二病院
(社福) 賛育会 賛育会病院
(社福) 慈生会 慈生会病院
(社福) 勝楽堂病院
(社福) 仁生社 江戸川病院
(社福) 聖ヨハネ会総合病院桜町病院
(社福) 聖母会 聖母病院
(社福) 鶴風会東京小児療育病院
(社福) 東京都同胞援護会昭島病院

(社福) 日本心身障害者協会島田療育センター
J R 東京総合病院
NTT 東日本関東病院
せんぼ東京高輪病院
まつしま産婦人科小児科病院
杏林大学病院
医療法人社団健全会立川相互病院
医療法人社団大坪会東和病院
医療法人社団日心会総合病院一心病院
稲城市立病院
永寿総合病院
苑田第一病院
吉川内科小児科病院
久我山病院
虎の門病院
公立昭和病院
国際医療福祉大学附属三田病院
国立がんセンター中央病院
国立国際医療センター
国立精神神経センター武蔵病院
(財) 日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院
財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院
財団法人東京都保健医療公社東部地域病院
三医会鶴川厚生病院
三井記念病院
慈恵医科大学 附属病院第3病院
自衛隊中央病院
社保中央総合病院
秋津療育園
順天堂大学附属順天堂医院
小平記念東京日立病院
森本病院
世田谷下田総合病院
成和会 西新井病院
青梅市立総合病院
浅草寺病院
総合病院三宿病院
総合病院大森赤十字病院
太陽こども病院
帝京大学医学部附属病院
田園調布中央病院
都立駒込病院
都立広尾病院
都立清瀬小児病院
都立東大和療育センター
都立府中病院
都立府中療育センター
都立北療育医療センター
都立墨東病院
東京医科歯科大学病院
東京医科大学八王子医療センター
東京医科大学病院
東京医療生協組合 中野総合病院
東京衛生病院
東京警察病院
東京厚生年金病院
東京慈恵会医科大学病院
東京女子医科大学病院
東京大学医学部研究所附属病院
東京大学病院
東京通信病院
東京電力病院
東京都済生会中央病院
東京都立大塚病院
東京臨海病院
東京労災病院
東邦大学 大橋病院
東邦大学 大森病院
同愛記念病院
独立行政法人国立病院機構東京医療センター
日本医科大学 多摩永山病院
日本医科大学病院
日本赤十字社医療センター
日本大学 附属板橋病院
日本大学医学部附属練馬光が丘病院
博慈会記念総合病院
武蔵野赤十字病院
母子愛育会総合母子保健センター愛育病院
北里研究所病院

立正佼成会 附属佼成病院
緑成会病院
緑風荘病院
公立福生病院
慶應義塾大学病院
東京女子医科大学東医療センター
医療法人社団久保田産婦人科病院
独立行政法人国立病院機構災害医療センター

14. 神奈川県

(医社) JMA 海老名総合病院
(医社) 愛友会 金沢文庫病院
(医社) 青葉会 牧野記念病院
(医社) 明芳会 横浜旭中央総合病院
(医社) 亮正会 総合高津中央病院
(医療) 愛仁会 太田総合病院
(医療) 徳洲会 大和徳洲会病院
(医療) 徳洲会 茅ヶ崎徳洲会総合病院
(財) 横浜勤労者福祉協会汐田総合病院
(財) 神奈川県警友会けいゆう病院
(社団) 日本厚生団長津田厚生総合病院
(社福) 湘南福祉協会総合病院湘南病院
医療法人産育会堀病院
医療法人社団緑成会横浜総合病院
横須賀市立うわまち病院
横須賀市立市民病院
横浜栄共済病院
横浜市立みなと赤十字病院
横浜市立市民病院
横浜市立大学医学部附属病院
横浜労災病院
茅ヶ崎市立病院
関東労災病院
厚生連総合病院伊勢原協同病院
厚木市立病院
康心会湘南東部総合病院
国公共済連 虎の門病院分院
国公共済連横浜南共済病院
国公共済連総合病院横須賀共済病院
国公共済連総合病院平塚共済病院
国際親善総合病院
済生会 横浜市南部病院
三浦市立病院
三喜会横浜新緑総合病院
自衛隊横須賀病院
住友重機械健保組合 浦賀病院
重症心身障害児(者)施設横浜療育医療センター
小田原市立病院
小澤病院
昭和大学 藤が丘病院
昭和大学横浜市北部病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
湘南鎌倉総合病院
神奈川リハビリテーション病院
神奈川県立足柄上病院
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
聖マリアンナ医科大学病院
聖隷横浜病院
西横浜国際総合病院
川崎市立川崎病院
相模原協同病院
相模台病院
総合川崎臨港病院
総合相模更生病院
総合病院 聖ヨゼフ病院
総合病院 秦野赤十字病院
大口東総合病院
大和市立病院
帝京大学 溝口病院
東海大学病院
藤沢市民病院
独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
独立行政法人国立病院機構神奈川病院
独立行政法人国立病院機構相模原病院
日本鋼管病院
淵野辺総合病院
平塚市民病院
北里大学病院
日本医科大学 武蔵小杉病院

一成会たちばな台クリニック
神奈川県立汐見台病院
桜ヶ丘中央病院 小児科
横浜市立大学附属市民総合医療センター

15. 新潟県

(医療) 立川総合病院
けいなん病院
共生会中条中央病院
厚生連村上総合病院
国民健康保険町立ゆきぐに大和総合病院
佐渡市立両津病院
佐渡総合病院
済生会 三条病院
済生会新潟第二病院
三条総合病院
小千谷総合病院
上越総合病院
上村病院
新潟こぼり病院
新潟県はまぐみ小児療育センター
新潟県立ガンセンター新潟病院
新潟県立加茂病院
新潟県立吉田病院
新潟県立坂町病院
新潟県立十日町病院
新潟市民病院
新潟大学医学部附属病院
新潟南病院
新津医療センター病院
水原郷病院
聖園病院
町立津南病院
長岡療育園
徳洲会山北徳洲会病院
独立行政法人国立病院機構さいがた病院
独立行政法人国立病院機構新潟病院
独立行政法人国立病院機構西新潟中央病院
木戸病院
長岡中央総合病院

16. 富山県

あさひ総合病院
かみいち総合病院
厚生連滑川病院
高岡市民病院
高木総合病院
黒部市民病院
射水市民病院
社会保険 高岡病院
独立行政法人国立病院機構富山病院
南砺市民病院
富山県済生会 富山病院
富山県立高志学園
富山赤十字病院
富山労災病院
富山大学附属病院

17. 石川県

医療法人社団和楽仁辰口芳珠記念病院
金沢医科大学病院
金沢市立病院
金沢社会保険病院
金沢聖霊総合病院
金沢西病院
金沢赤十字病院
金沢大学医学部附属病院
金沢有松病院
恵愛病院
公立つるぎ病院
公立羽咋病院
公立穴水総合病院
公立松任石川中央病院
公立能登総合病院
国保小松市民病院
国民健康保険志雄病院
珠洲市総合病院
城北病院
石川県立中央病院

石川整肢学園
町立富来病院
独立行政法人国立病院機構金沢医療センター
独立行政法人国立病院機構七尾病院
能美市立病院
加賀市民病院

1 8. 福井県

(医療) 福井愛育病院
レイクヒルズ美方病院
笠原病院
公立小浜病院
公立丹南病院
市立敦賀病院
社保高浜病院
大滝病院
町立三国病院
独立行政法人 国立病院機構 福井病院
独立行政法人国立病院機構あわら病院
福井県済生会病院
福井県小児療育センター
福井県立病院
福井社会保険病院
福井赤十字病院
福井大学医学部附属病院

1 9. 山梨県

塩山市民病院
加納岩総合病院
巨摩共立病院
甲府共立病院
山梨県立あけぼの医療福祉センター
山梨県立中央病院
山梨厚生病院
山梨赤十字病院
上野原市立病院
石和共立病院
大月市立中央病院
都留市立病院
桃花会一宮温泉病院
富士吉田市立病院
北杜市立甲陽病院

2 0. 長野県

(医療) 佐藤病院
(医療) 慈泉会 相澤病院
伊那中央病院
医療法人新生病院
軽井沢町国民健康保険軽井沢病院
健和会病院
御代田中央記念病院
佐久市立国保浅間総合病院
佐久穂町立千曲病院
市立大町総合病院
昭和伊南総合病院
松本協立病院
城西病院
信州大学病院
信濃医療福祉センター
諏訪中央病院
中信勤労者医療協会塩尻協立病院
町立辰野総合病院
長野県厚生農協連 佐久総合病院
長野県厚生農業組合連合会篠ノ井総合病院
長野県厚生農業組合連合会富士見高原病院
長野県立阿南病院
長野県立須坂病院
長野県立木曾病院
長野厚生農協連 新町病院
長野松代総合病院
長野赤十字病院
長野中央病院
独立行政法人国立病院機構松本病院
独立行政法人国立病院機構中信松本病院
独立行政法人国立病院機構長野病院
独立行政法人国立病院機構東長野病院
飯山赤十字病院
飯田市立病院
豊科赤十字病院

J A 長野厚生連 北信総合病院

2 1. 岐阜県

(医社) 誠広会 平野総合病院
J A 岐阜厚生連 東濃厚生病院
医療法人社団友愛会岩砂病院第 1
医療法人藤掛病院
医療法人白水会白川病院
羽島市民病院
下呂市立金山病院
河村病院
海津市医師会病院
岐阜県厚生農協連 揖斐厚生病院
岐阜県厚生農協連 西美濃厚生病院
岐阜県厚生農業協同組合連合会岐阜厚生病院
岐阜県厚生連久美愛病院
岐阜県立下呂温泉病院
岐阜県立多治見病院
岐阜厚生農協連 中濃厚生病院
岐阜社会保険病院
岐阜赤十字病院
岐阜大学医学部附属病院
公立学校共済組合 東海中央病院
国保関ヶ原病院
国保坂下病院
国保飛騨市民病院
国立病院機構長良医療センター
市立恵那病院
松波総合病院
総合病院 高山赤十字病院
総合病院中津川市民病院
多治見市民病院
大垣市民病院
土岐市立総合病院
美濃市立美濃病院
木沢記念病院

2 2. 静岡県

(社) 有隣厚生会 富士病院
掛川市立総合病院
共立蒲原総合病院
共立湖西総合病院
共立湊病院
国際医療福祉大学附属熱海病院
国立病院機構静岡医療センター
市立伊東市民病院
市立御前崎総合病院
重症心身障害児施設おぞら療育センター
順天堂大学医学部附属静岡病院
所記念病院
沼津市立病院
焼津市立総合病院
榛原総合病院
聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院
聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院
静岡県立こども病院
静岡県立静岡がんセンター
静岡県立総合病院
静岡市立清水病院
静岡市立静岡病院
静岡赤十字病院
総合病院 清水厚生病院
総合病院 静岡厚生病院
総合病院 浜松赤十字病院
袋井市立袋井市民病院
藤枝市立総合病院
独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・
神経医療センター
独立行政法人国立病院機構静岡富士病院
独立行政法人国立病院機構天竜病院
磐田市立総合病院
浜松医科大学附属病院
浜松北病院
浜松労災病院
富士宮市立病院
富士市立中央病院
芙蓉協会 聖隷沼津病院

2 3. 愛知県

(医療) 光生会病院
(医療) 志聖会 犬山中央病院
(医療) 宝美会 総合青山病院
N T T 西日本東海病院
あいち小児保健医療総合センター
トヨタ記念病院
みなと医療生協協立総合病院
愛知県厚生農協連 渥美病院
愛知県厚生農協連 昭和病院
愛知県厚生農協連 安城更生病院
愛知県厚生農協連 加茂病院
愛知県厚生農協連 知多厚生病院
愛知県厚生農協連 尾西病院
愛知県厚生連 海南病院
愛知県青い鳥医療福祉センター
旭労災病院
安藤病院
医仁会さくら病院
医療法人財団新和会八千代病院
医療法人青山病院
医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院
一宮市立市民病院
稲沢市民病院
公立陶生病院
公立尾陽病院
高浜市立病院
国立病院機構豊橋医療センター
国立病院機構名古屋医療センター
三菱名古屋病院
市立半田病院
社保中京病院
春日井市民病院
小牧市民病院
上飯田第一病院
常滑市民病院
新城市民病院
成田記念病院
聖霊病院
青和会 中央病院
総合大雄会病院
足助病院
大同病院
中部労災病院
津島市民病院
東海産業医療団中央病院
東海市民病院
藤田保健衛生大学坂文種徳会病院
藤田保健衛生大学病院
南生協病院
尾西市民病院
福祉会 高須病院
碧南市民病院
豊橋市民病院
豊川市民病院
豊田地域医療センター
名古屋市立守山市民病院
名古屋市立城西病院
名古屋市立大学病院
名古屋市立東市民病院
名古屋市立緑市民病院
名古屋大学病院
名古屋第一赤十字病院
名古屋第二赤十字病院
名古屋通信病院
名古屋掖済会病院
名南病院
愛知県心身障害者コロニー中央病院
名鉄病院
一心会加藤産婦人科

2 4. 三重県

医療法人ヨナハクリニク
岡波総合病院
紀南病院
桑名市民病院
菟野厚生病院
国立病院機構三重中央医療センター
国立病院機構三重病院
済生会明和病院

三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院
三重県厚生連いなべ総合病院
三重県立志摩病院
三重県立総合医療センター
三重大学病院
山田赤十字病院
山本総合病院
四日市社会保険病院
市立伊勢総合病院
市立四日市病院
大門病院
津生協病院
独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院
尾鷲総合病院
名張市立病院
鈴鹿回生病院

25. 滋賀県

(医療) 彦根中央病院
伊香郡病院組合立湖北総合病院
医療法人 マキノ病院
近江草津徳洲会病院
公立高島総合病院
昂会湖東記念病院
済生会滋賀県病院
滋賀医科大学病院
滋賀県立小児保健医療センター
社会保険滋賀病院
重症心身障害児施設第一びわこ学園
重症心身障害児施設第二びわこ学園
真心会南草津野村病院
大津赤十字志賀病院
大津赤十字病院
長浜赤十字病院
東近江市立能登川病院
独立行政法人国立病院機構紫香楽病院
彦根市立病院
野洲病院
友仁山崎病院
大津市民病院 小児循環器科
近江八幡市立総合医療センター

26. 京都府

(医療) 医誠会 京都ルネス病院
(医療) 育生会 久野病院
(医療) 宇治徳洲会病院
(医療) 啓信会 京どきづ川病院
(社福) 宇治病院
(社福) 聖ヨゼフ会聖ヨゼフ整肢園
綾部市立病院
医聖会 八幡中央病院
医聖会京都八幡病院
医療法人財団康生会東山武田病院
医療法人和松会六地藏総合病院
宇治武田病院
花ノ木医療福祉センター
関西医科大学男山病院
亀岡市立病院
京丹後市立久美浜病院
京丹後市立弥栄病院
京都医療センター
京都市立病院
京都社会事業財団 京都桂病院
京都第二赤十字病院
京都通信病院
京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門
京都武田病院
金井病院
公立南丹病院
済生会 京都府病院
三青園丹後ふるさと病院
山元病院
市立舞鶴市民病院
市立福知山市民病院
社会保険京都病院
社団法人京都保健会京都民医連中央病院
西京都病院
総合病院 京都南病院
総合病院 日本バプテスト病院

足立病院
第二岡本総合病院
独立行政法人国立病院機構宇多野病院
独立行政法人国立病院機構京都部
独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター
府立舞鶴こども療育センター
舞鶴共済病院
舞鶴赤十字病院
堀川病院
洛和会 音羽病院
京都大学医学部附属病院 小児科

27. 大阪府

(医療) きっこう会総合病院多根病院
(医療) 公道会病院
(医療) 有恵会香里ヶ丘有恵会病院
(財) 西淀病院
うえだ下田部病院
コープおおさか病院
愛賛会浜田病院
愛仁会 高槻病院
愛仁会 千船病院
医誠会病院
茨木医誠会病院
関西医科大学病院
関西電力病院
岸和田徳洲会病院
紀和会 正風病院
貴生病院
協仁会 小松病院
協和会 北大阪病院
錦秀会阪和住吉総合病院
近畿大学医学部堺病院
近畿大学医学部附属病院
五月会青山第二病院
康生会 みと中央病院
弘雅会寺方生野病院
国立循環器病センター
済生会 茨木病院
済生会 中津病院
済生会 野江病院
阪南市立病院
三世会森本病院
三友会久松病院
四天王寺福祉事業団四天王寺和らぎ苑
市立貝塚病院
市立岸和田市民病院
市立松原病院
市立泉佐野病院
市立藤井寺市民病院
市立柏原病院
市立豊中病院
市立枚方市民病院
寺西報恩会 長吉総合病院
住友病院
彰療会 大正病院
松下記念病院
信愛会 交野病院
真美会 中野こども病院
星ヶ丘厚生年金病院
清恵会病院
生協こども診療所
生長会 ベルランド総合病院
生長会 府中病院
聖和病院
石井記念愛染園 愛染橋病院
仙養会 北摂総合病院
泉大津市立病院
浅香山病院
大阪医科大学病院
大阪厚生年金病院
大阪府立十三市民病院
大阪府立総合医療センター小児循環器内科
大阪府立大学病院
大阪府立北市民病院
大阪赤十字病院
大阪船員保険病院
大阪大学医学部附属病院
大阪府警察協会大阪警察病院

大阪府済生会 吹田病院
大阪府済生会 泉尾病院
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
大阪府立母子保健総合医療センター
大阪掖済会病院
大手前鶴こども療育センター
大植会葛城病院
東豊中渡辺病院
同仁会 耳原総合病院
同友会 共和病院
徳洲会 八尾徳洲会総合病院
篤友会 総合坂本病院
独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
日本生命済生会 日生病院
八尾市立病院
宝生会 P.L.病院
北大阪医療生活協同組合照葉の里箕面病院
箕面市立病院
有恵会 有沢総合病院
淀川キリスト教病院
和泉市立病院
医誠会 城東中央病院
大道会 森の宮病院
大阪府済生会千里病院

28. 兵庫県

(医療) 協和会協立病院
(医療) 薫風会 佐野病院
(医療) 明和病院
(医療晋真会) ベリタス病院
医療法人 パルモア病院
医療法人財団 神戸海星病院
医療法人順心会 順心病院
医療法人伯鳳会 赤穂中央病院
加古川市民病院
関西労災病院
協和会協和マリナホスピタル
公学共済 近畿中央病院
公立香住総合病院
公立六粟総合病院
公立社総総合病院
公立神崎総合病院
公立八鹿病院
公立豊岡病院
甲南病院
高砂市民病院
砂子療育園
済生会 兵庫県病院
三田市民病院
市立芦屋病院
市立伊丹病院
市立三木市民病院
市立西脇病院
市立川西病院
社保神戸中央病院
樹徳会上ヶ原病院
小野市民病院
鐘紡記念病院
真星病院
神戸アドベンチスト病院
神戸市立西市民病院
神戸市立中央市民病院
神戸赤十字病院
神戸大学病院
神戸朝日病院
神戸通信病院
神戸徳洲会病院
神戸掖済会病院
神鋼加古川病院
神鋼病院
西宮回生病院
西宮市立中央病院
西神戸医療センター
石川島播磨重工業健保組合播磨病院
総合病院 昭和病院
淡路平成会東浦平成病院
適寿リハビリテーション病院
独立行政法人国立病院機構神戸医療センター

独立行政法人国立病院機構姫路医療センター
独立行政法人国立病院機構兵庫青野原病院
尼崎医療生協病院
柏原赤十字病院
姫路赤十字病院
兵庫医科大学病院
兵庫県立こども病院
兵庫県立塚口病院
兵庫県立尼崎病院
兵庫県立柏原病院
平成病院
宝塚市立病院
明石市立市民病院
明舞中央病院
六甲アイランド病院
新日鐵広畑病院

29. 奈良県

国保中央病院
済生会 中和病院
済生会 奈良病院
済生会御所病院
市立奈良病院
清心会 桜井病院
大和高田市立病院
町立大淀病院
天理よろづ相談所病院
天理市立病院
土庫病院
東生駒病院
東大寺整肢園
独立行政法人国立病院機構奈良医療センター
奈良県心身障害者リハビリテーションセンター
奈良県立医科大学病院
奈良県立五條病院
奈良県立三室病院
奈良県立奈良病院
奈良社会保険病院
友誼会病院

30. 和歌山県

海南市民病院
橋本市立病院
公立那賀病院
国保日高総合病院
新宮市立医療センター
白浜はまゆう病院
富田会富田病院
労働福祉事業団 和歌山労災病院
和歌山県立医科大学病院
和歌山県立医科大学病院紀北分院
和歌山生協病院
社会保険紀南病院

31. 鳥取県

国保智頭病院
鳥取医療生協鹿野温泉病院
鳥取県済生会 境港総合病院
鳥取県立中央病院
鳥取市立病院
鳥取生協病院
鳥取大学病院
独立行政法人国立病院機構米子医療センター
南部町国民健康保険西伯病院
日野病院
博愛病院
独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

32. 島根県

安来市立病院
隠岐広域連立隠岐病院
益田赤十字病院
吉生会吉岡病院
公立雲南総合病院
済生会 江津総合病院
出雲市立総合医療センター
松江記念病院
松江市立病院
松江生協病院

松江赤十字病院
西部島根心身障害医療福祉センター
町立奥出雲病院
島根県立中央病院
東部島根心身障害医療福祉センター
独立行政法人国立病院機構松江病院
独立行政法人国立病院機構浜田医療センター
島根大学医学部附属病院

33. 岡山県

(医) 水と和会 水島中央病院
(財) 弘仁会 玉島病院
(財) 仁厚医学研究所 児島中央病院
(財) 倉敷中央病院
さとう記念病院
ペリネイト母と子の病院
旭川荘療育センター児童院
岡山労災病院
笠岡市立市民病院
笠岡第一病院
笠岡中央病院
国保町立成羽病院
国立病院岡山医療センター
三菱水島病院
市立井原市民病院
市立玉野市民病院
重井医学研究所附属病院
新見中央病院
水と和会倉敷リハビリテーション病院
川崎医科大学病院
川崎医学振興財団川崎病院
倉敷リバーサイド病院
倉敷市立児島市民病院
倉敷成人病センター
総合病院 岡山協立病院
総合病院 岡山市立市民病院
総合病院 水島協同病院
総合病院 落合病院
津山中央病院
独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター

34. 広島県

あかね会 土谷総合病院
うすい会 高陽ニュータウン病院
マツダ株式会社 マツダ病院
みのり会 北川病院
県立安芸津病院
県立広島病院
県立身体障害者リハビリテーションセンター
医療センター
呉共済病院
公立みつぎ総合病院
厚生連 広島総合病院
広島医療生協広島共立病院
広島記念病院
広島県厚生農協連 吉田総合病院
広島県厚生農協連 府中総合病院
広島厚生連農協 尾道総合病院
広島市医師会運営安芸市民病院
広島市立安佐市民病院
広島市立舟入病院
広島通信病院
広島鉄道病院
国立病院呉医療センター
市立三次中央病院
社保広島市民病院
世羅中央病院
正岡病院
総合病院 三原赤十字病院
総合病院 庄原赤十字病院
総合病院 三愛
多田病院
中国電力株式会社 中電病院
中国労災病院
独立行政法人国立病院機構賀茂精神医療センター
独立行政法人国立病院機構原病院
独立行政法人国立病院機構大竹病院
独立行政法人国立病院機構東広島医療センター

独立行政法人国立病院機構福山医療センター
日本鋼管福山病院
日立造船健保因島総合病院
福山市市民病院
頼島産婦人科病院
里仁会 興生総合病院
松田医院

35. 山口県

宇部興産 中央病院
下関市立中央病院
共立美東国保病院
元洋会 森山病院
国立病院機構関門医療センター
済生会 下関総合病院
山口県済生会下関市立豊浦病院
山口大学病院
山口労災病院
山陽小野田市立小野田市民病院
治徳会 湯野温泉病院
社保徳山中央病院
周東総合病院
周南記念病院
小郡第一総合病院
神徳会 三田尻病院
総合病院 光市立病院
長門総合病院
独立行政法人国立病院機構山陽病院
和同会山口リハビリテーション病院
山口県立総合医療センター
光市立大和総合病院

36. 徳島県

(医療) 原田病院
阿波病院
健保鳴門病院
厚生連 麻植協同病院
町立半田病院
田崎病院
徳島市民病院
徳島赤十字病院

37. 香川県

屋島総合病院
香川井下病院
香川県済生会病院
香川県立中央病院
香川県立津田病院
香川町国民健康保険香川病院
高松市民病院
高松赤十字病院
高松平和病院
国立善通寺病院
三豊総合病院
社保栗林病院
深田記念会松井病院
総合病院 坂出市立病院
大樹会総合病院 回生病院
独立行政法人国立病院機構香川小児病院
麻田総合病院
香川大学医学部附属病院

38. 愛媛県

(財法) 積善会附属十全総合病院
愛媛県立今治病院
愛媛県立三島病院
愛媛県立新居浜病院
愛媛県立中央病院
愛媛県立南宇和病院
愛媛大学病院
愛媛労災病院
旭川荘南愛媛病院
伊予病院
宇和島市立吉田病院
公立学校共済組合四国中央病院
更生会 村上記念病院
済生会今治病院
市立宇和島病院
住友別子病院

西条市立周桑病院
西条中央病院
西予市立野村病院
総合病院松山赤十字病院
大洲市立大洲病院
独立行政法人国立病院機構愛媛病院
美須賀病院
松風病院

39. 高知県

(医療) 仁生会 三愛病院
J A高知病院
公世会野市中央病院
高知医科大学病院
高知医療センター
高知県立安芸病院
高知赤十字病院
国立高知病院
十全会 早明浦病院
仁生会 細木病院
須崎くろしお病院
土佐市立土佐市民病院
幡多けんみん病院

40. 福岡県

やまびこ学園
鞍手町立病院
井上会 篠栗病院
笠松会有吉病院
丸山病院
久留米大学医療センター小児科
久留米大学病院
九州厚生年金病院
九州大学病院
九州労災病院
健和会 大手町病院
健和会京町病院
公立学校共済 九州中央病院
高邦会 高木病院
国立病院九州がんセンター
国立病院九州医療センター
産業医科大学病院
慈恵曾根病院
自衛隊 福岡病院
宗像医師会病院
宗像水光会総合病院
新小倉病院
水巻共立病院
正信会 水戸病院
聖ヨゼフ園
西野病院
千早病院
相生会 宮田病院
太刀洗病院
大牟田記念病院
大牟田市立総合病院
田川市立病院
徳洲会 福岡徳洲会病院
独立行政法人国立病院機構小倉病院
独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
独立行政法人国立病院機構福岡病院
浜の町病院
福岡記念病院
福岡県済生会 福岡総合病院
福岡県済生会八幡病院
福岡県立粕屋新光園
福岡県立柳川病院
福岡市民病院
福岡赤十字病院
福岡大学筑紫病院
福岡大学病院
福岡通信病院
米の山病院
北九州市立医療センター
北九州市立若松病院
北九州市立総合療育センター
北九州市立八幡病院救命救急センター
北九州市立門司病院
北九州総合病院

牧山中央病院
牟田病院
ゆうかり医療療育センター
福岡和白病院
飯塚病院

41. 佐賀県

伊万里市立市民病院
医療法人社団 敬愛会 佐賀記念病院
古賀小児科内科病院
佐賀医科大学病院
佐賀社会保険病院
佐賀整肢学園こども発達医療センター
至慈会 高島病院
順天堂病院
静便堂 白石共立病院
唐津赤十字病院
独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター
独立行政法人国立病院機構佐賀病院

42. 長崎県

(医療) 白十字会佐世保中央病院
みさかえの園あゆみの家
医療法人医理会 柿添病院
壱岐公立病院
諫早療育センター
健保諫早総合病院
県立こども医療福祉センター
国保平戸市民病院
国立病院長崎医療センター
佐世保共済病院
佐世保市立総合病院
柴田長庚堂病院
中対馬病院
長崎記念病院
長崎県済生会病院
長崎県立島原病院
長崎市立市民病院
長崎大学病院
独立行政法人国立病院機構長崎病院
日赤長崎原爆病院
平成会 女の都病院

43. 熊本県

くわみず病院
はまゆう療育園
愛育会 福田病院
芦北学園発達医療センター
丸田病院
菊池中央病院
球磨郡公立多良木病院
玉名地域保健医療センター
熊本市市民病院
熊本循環器科病院
熊本赤十字病院
熊本大学医学部附属病院
熊本第一病院
熊本託麻台病院
熊本中央病院
熊本労災病院
健保天草中央総合病院
公立玉名中央病院
山鹿市立病院
上天草総合病院
杉村会杉村病院
聖和会有明成仁病院
天草慈恵病院
天草地域医療センター
独立行政法人国立病院機構菊池病院
独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院
八代市医師会立病院
八代総合病院
和水町立病院
黎明会宇賀岳病院

44. 大分県

医療法人財団天心堂へつぎ病院

健保南海病院
国東市民病院
西田病院
大分こども病院
大分岡病院
大分県済生会日田病院
大分県立病院
大分市医師会立アルメイダ病院
大分大学医学部附属病院
竹田医師会病院
中津市立中津市民病院
独立行政法人国立病院機構西別府病院
別府医療センター
別府発達医療センター

45. 宮崎県

育生会井上病院
宮崎県済生会日向病院
宮崎生協病院
宮崎大学附属病院
県立延岡病院
県立宮崎病院
県立日南病院
宏仁会海老原総合病院
高千穂町国保病院
小林市立市民病院
都城市郡医師会病院
独立行政法人国立病院機構宮崎東病院
独立行政法人国立病院機構宮崎病院

46. 鹿児島県

オレンジ学園
やまびこ医療福祉センター
医療法人 義順顕彰会田上病院
医療法人徳洲会徳之島徳洲会病院
沖永良部徳洲会病院
喜界徳洲会病院
国分生協病院
今村病院
済生会 川内病院
財団法人今給黎総合病院
市比野記念病院
鹿児島こども病院
鹿児島県立薩南病院
鹿児島市医師会病院
鹿児島市立病院
鹿児島大学病院
曾於郡医師会立病院
総合病院鹿児島生協病院
徳洲会 鹿児島徳洲会病院
徳洲会 屋久島徳洲会病院
独立行政法人国立病院機構指宿病院
独立行政法人国立病院機構南九州病院
霧島市立医師会医療センター
国立病院鹿児島医療センター

47. 沖縄県

(医療) おもと会 大浜第1病院
かりゆし会ハートライフ病院
医療法人 友愛会 南部病院
医療法人信和会沖縄第一病院
沖縄協同病院
沖縄県立宮古病院
沖縄県立中部病院
沖縄整肢療護園
球陽会 海邦病院
敬愛会 中頭病院
県立北部病院
中部徳洲会病院
潮平病院
独立行政法人国立病院機構沖縄病院
那覇市立病院
北部病院
与勝病院
与那原中央病院
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
沖縄療育園

川崎病調査票(第19回全国調査)

一住所、電話番号の誤りは朱書にて訂正下さい。

P.

お願い

- 平成17年1月1日～平成18年12月31日の2年間に発症し貴施設を受診した患者全員について記入して下さい。
- 症例がない場合も本調査票のQ1.「施設に関する質問」をご記入の上、ご返送下さい。
- 他施設より紹介された患者、他施設へ紹介した患者も含めます。

返送先
〒329-0498
栃木県下野市薬師寺3311-1
自治医科大学公衆衛生学教室気付
川崎病全国疫学調査事務局 宛
電話:(0285-44-6192, 0285-58-7338)
ファクシミリ:(0285-44-7217)

| 主治医(代表者) ご芳名 | | 平成18年12月 川崎病全国疫学調査事務局作成 | | | | 診断の確定度の定義 1 確定A:6つの主要症状のうち5つ以上の症状あり 2 確定B:4つの症状しかないが冠動脈瘤(拡大)を伴う 3 容疑:診断の手引きに合致しないが疑いがある | | ガンマグロブリン(GG)投与 貴院で投与したのみ記入する 追加治療はあてはまるものすべてに○をつける *追加治療ありでパルス以外のステロイドを使用した場合には製剤名と投与方法(経口・静注)をカッコ内に記入する。 | | 今回の発症 | 同胞例 | 両親の川崎病既往歴 | 心障害 該当するものすべてに○をつける 巨大瘤は直径8mm以上の冠動脈瘤をいう | | 死亡 | | | | |
|-----------------|-----------------------------|----------------------------|-----|------------|------------------------|--|---|--|-----------------------------|-----------------------|--|-----------|---|-----------|----------------|-----------|----------------|---------------|------------------------|
| 記入しない↓ | 患者氏名 イニシアル 姓・名の順に記入する | 発病時患者住所 番地は省略する | 性 | 出生年月日 | 初診年月日 初診年は1か2に○をつける | 初診時 病日 | 解熱 病日 最高体温が37.5℃未満となりそれが24時間経過した時点の病日 | 診断の 確定度 | BCG接種 部位の 発赤・痂皮 形成 | 追加治療ありの場合 | | | | | 急性期 (1か月以内) | | 後遺症 (1か月以降) | | 2 ありの場合 Q2も 記入する |
| | | | | | | | | | | 1 なし | 2 あり | | | | 1 なし | 2 あり | 1 なし | 2 あり | |
| | | 都道府県 | 1 男 | 昭・平____年 | 1 平成17年 | 初診時 | | 1 確定A | 1 なし | 1 なし | 1 GG追加投与 投与開始____病日 追加総投与量____mg/kg | 1 初発 | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし |
| | | 市郡 | | | 2 平成18年 | ____病日 | | 2 確定B | 1 なし | 初回投与開始 | 2 ステロイド投与 投与開始____病日 | 2 再発 | 2 あり | 2 あり(父・母) | 2 巨大瘤 3 瘤 | 2 巨大瘤 3 瘤 | 2 あり | 2 あり | 2 あり |
| | | 区町村 | 2 女 | ____月____日 | ____月____日 | ____病日 | | 3 容疑 | 2 あり | 1日____mg/kg ×____日 | 1 ハルス 1日____mg/kg×____日 2 ハルス以外*(____経口 静注) | | 2 あり | 3 不明 | 4 拡大 5 狭窄 | 4 拡大 5 狭窄 | 6 心筋梗塞 7 弁膜病変 | 6 心筋梗塞 7 弁膜病変 | 2 あり |
| | | 都道府県 | 1 男 | 昭・平____年 | 1 平成17年 | 初診時 | | 1 確定A | 1 なし | 1 なし | 1 GG追加投与 投与開始____病日 追加総投与量____mg/kg | 1 初発 | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし |
| | | 市郡 | | | 2 平成18年 | ____病日 | | 2 確定B | 1 なし | 初回投与開始 | 2 ステロイド投与 投与開始____病日 | 2 再発 | 2 あり | 2 あり(父・母) | 2 巨大瘤 3 瘤 | 2 巨大瘤 3 瘤 | 2 あり | 2 あり | 2 あり |
| | | 区町村 | 2 女 | ____月____日 | ____月____日 | ____病日 | | 3 容疑 | 2 あり | 1日____mg/kg ×____日 | 1 ハルス 1日____mg/kg×____日 2 ハルス以外*(____経口 静注) | | 2 あり | 3 不明 | 4 拡大 5 狭窄 | 4 拡大 5 狭窄 | 6 心筋梗塞 7 弁膜病変 | 6 心筋梗塞 7 弁膜病変 | 2 あり |
| | | 都道府県 | 1 男 | 昭・平____年 | 1 平成17年 | 初診時 | | 1 確定A | 1 なし | 1 なし | 1 GG追加投与 投与開始____病日 追加総投与量____mg/kg | 1 初発 | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし |
| | | 市郡 | | | 2 平成18年 | ____病日 | | 2 確定B | 1 なし | 初回投与開始 | 2 ステロイド投与 投与開始____病日 | 2 再発 | 2 あり | 2 あり(父・母) | 2 巨大瘤 3 瘤 | 2 巨大瘤 3 瘤 | 2 あり | 2 あり | 2 あり |
| | | 区町村 | 2 女 | ____月____日 | ____月____日 | ____病日 | | 3 容疑 | 2 あり | 1日____mg/kg ×____日 | 1 ハルス 1日____mg/kg×____日 2 ハルス以外*(____経口 静注) | | 2 あり | 3 不明 | 4 拡大 5 狭窄 | 4 拡大 5 狭窄 | 6 心筋梗塞 7 弁膜病変 | 6 心筋梗塞 7 弁膜病変 | 2 あり |
| | | 都道府県 | 1 男 | 昭・平____年 | 1 平成17年 | 初診時 | | 1 確定A | 1 なし | 1 なし | 1 GG追加投与 投与開始____病日 追加総投与量____mg/kg | 1 初発 | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし |
| | | 市郡 | | | 2 平成18年 | ____病日 | | 2 確定B | 1 なし | 初回投与開始 | 2 ステロイド投与 投与開始____病日 | 2 再発 | 2 あり | 2 あり(父・母) | 2 巨大瘤 3 瘤 | 2 巨大瘤 3 瘤 | 2 あり | 2 あり | 2 あり |
| | | 区町村 | 2 女 | ____月____日 | ____月____日 | ____病日 | | 3 容疑 | 2 あり | 1日____mg/kg ×____日 | 1 ハルス 1日____mg/kg×____日 2 ハルス以外*(____経口 静注) | | 2 あり | 3 不明 | 4 拡大 5 狭窄 | 4 拡大 5 狭窄 | 6 心筋梗塞 7 弁膜病変 | 6 心筋梗塞 7 弁膜病変 | 2 あり |
| | | 都道府県 | 1 男 | 昭・平____年 | 1 平成17年 | 初診時 | | 1 確定A | 1 なし | 1 なし | 1 GG追加投与 投与開始____病日 追加総投与量____mg/kg | 1 初発 | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし | 1 なし |
| | | 市郡 | | | 2 平成18年 | ____病日 | | 2 確定B | 1 なし | 初回投与開始 | 2 ステロイド投与 投与開始____病日 | 2 再発 | 2 あり | 2 あり(父・母) | 2 巨大瘤 3 瘤 | 2 巨大瘤 3 瘤 | 2 あり | 2 あり | 2 あり |
| | | 区町村 | 2 女 | ____月____日 | ____月____日 | ____病日 | | 3 容疑 | 2 あり | 1日____mg/kg ×____日 | 1 ハルス 1日____mg/kg×____日 2 ハルス以外*(____経口 静注) | | 2 あり | 3 不明 | 4 拡大 5 狭窄 | 4 拡大 5 狭窄 | 6 心筋梗塞 7 弁膜病変 | 6 心筋梗塞 7 弁膜病変 | 2 あり |

Q1.「施設に関する質問」(本調査票を2枚以上使用の場合は1枚目にご記入下さい)

Q2.「死亡例に関する質問」(今回の報告のみでなく、前回までの調査で生存として報告され、後に死亡した例も含めてご記入下さい)

1. 貴院のベッド数はいくつですか。 病院全体 ____床 小児科一般病床 ____床

2. 貴院の小児科医は何人ですか。 常勤小児科医 ____人 非常勤小児科医 ____人
そのうち循環器を専門とする小児科医 常勤小児科医 ____人 非常勤小児科医 ____人

3. 貴院では川崎病患者に対するガンマグロブリンの基本的な投与方式を決めていますか。 1 はい(____mg/kg×____日間) 2 いいえ

| 患者氏名(イニシアル) | 性 | 出生年月日 | 川崎病初診年月日 | 死亡年月日 | 剖検の有無 | 死亡原因 | 剖検の施設名など |
|-------------|------------|------------------------|------------------------|-----------------------|--------------|------|----------|
| 姓 名 | 1 男 2 女 | 昭・平____年 ____月____日 | 昭・平____年 ____月____日 | 平成____年 ____月____日 | 1 なし 2 あり | | |
| 姓 名 | 1 男 2 女 | 昭・平____年 ____月____日 | 昭・平____年 ____月____日 | 平成____年 ____月____日 | 1 なし 2 あり | | |